
羽曳野市
在宅介護実態調査
報告書

令和5年3月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 有効回答件数及び回答率	1
(4) 留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 回答の記入者	2
(2) 世帯類型	2
(3) 現在抱えている傷病	3
3. 親族による介護	4
(1) 介護の頻度	4
(2) 主な介護者の属性	4
① 主な介護者	4
② 介護者の性別	5
③ 介護者の年齢	5
(3) 介護の内容	6
① 現在行っている介護	6
② 不安に感じる介護	7
(4) 介護離職	8
① 介護離職者の有無	8
② 主な介護者の勤務形態	8
③ 働き方の調整	9
④ 勤め先からの必要な支援	10
⑤ 今後の介護と仕事の両立	10
4. 支援・サービス	11
(1) 介護保険サービス（利用状況、満足度、利用していない理由）	11
(2) 介護保険サービス以外の支援・サービス	12
(3) 在宅生活に必要な支援・サービス	13
(4) 施設等への入所・入居の検討状況	14
(5) 訪問診療の利用状況	14
5. 認定データを使用した集計	15
(1) 在宅限界点向上のための支援・サービスの提供体制の検討	15
① 施設等への入所・入居の検討状況	15

② 介護者が不安に感じる介護	16
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	23
① 介護者の就労状況	23
② 介護者の就労継続見込み	27
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	29
① 保険外の支援・サービスの利用状況	29
② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス	32
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	35
① 要介護度と世帯類型	35
② サービス利用の組み合わせ	36
③ 施設等への入所・入居の検討状況	37
(5) 医療ニーズのある在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	39
① 主な介護者が行っている介護（医療面での対応）	39
② 訪問診療の利用有無	40
(6) 家族介護に対する支援・サービスの提供体制の検討	42
① 介護サービス未利用理由	42
② 主な介護者の年齢	43
6. 調査結果まとめ	44
(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	44
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの検討	44
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	44
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	44
(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	44

1. 調査概要

(1) 調査目的

「高齢者等の適切な在宅生活の継続」や「家族等介護者の就労継続」の実現に向けた介護サービスの在り方を検討することを目的としています。

(2) 調査の実施について

対象者	在宅で介護を受けている要介護（要支援）者のうち、実施期間中（郵送調査分については令和4年2月1日から令和4年10月31日までの間）に認定の更新や区分変更を申請した人及びその方を介護する家族等で本調査の趣旨に同意いただいた方 ※一部の施設入所者や新規申請者は対象外です。
実施期間	聞き取り調査：令和4年2月1日（火）～令和5年1月31日（火） 郵送調査：令和4年11月18日（金）～令和5年1月13日（金）
実施方法	認定調査員による聞き取り調査、郵送配布・回収

(3) 有効回答件数及び回答率

	配布数	回収数	有効回答数	有効回答率
聞き取り調査	245 件	245 件	245 件	100.0%
郵送調査	665 件	369 件	369 件	55.5%
計	910 件	614 件	614 件	67.5%

(4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっている。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合がある。
3. 複数回答の場合、図中にMA（Multiple Answer＝いくつでも）、3LA（3 Limited Answer＝3つまで）と記載している。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合がある。
4. クロス集計については、厚労省が推奨する在宅介護実態調査の自動集計分析ソフト（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社作成）を用いて、回答結果と認定データを突合・集計しています。認定データと突合ができない回答及び無回答を除いた集計となっています。

2. 回答者の属性

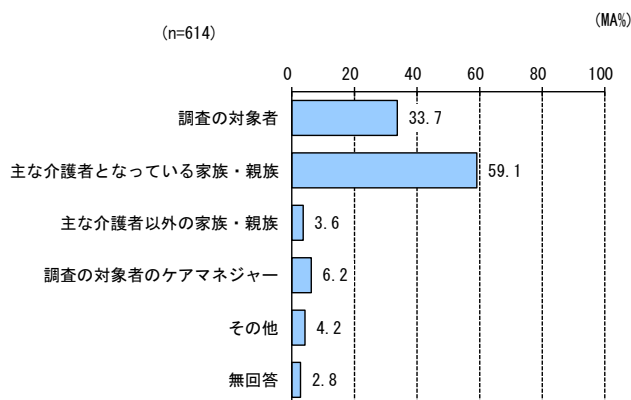
(1) 回答の記入者

●A票 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。(いくつでも○)

【全体】

○ 回答者について、「主な介護者となっている家族・親族」が59.1%で最も多く、次いで「調査の対象者」が33.7%、「調査の対象者のケアマネジャー」が6.2%となっています。

【回答者(MA)】



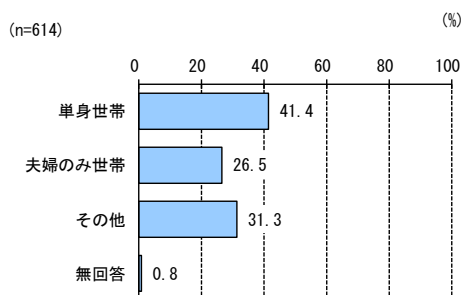
(2) 世帯類型

●A票 世帯類型について、ご回答ください。(1つだけ○)

【全体】

○ 世帯類型について、「単身世帯」が41.4%、「夫婦のみ世帯」が26.5%となっています。

【世帯類型】



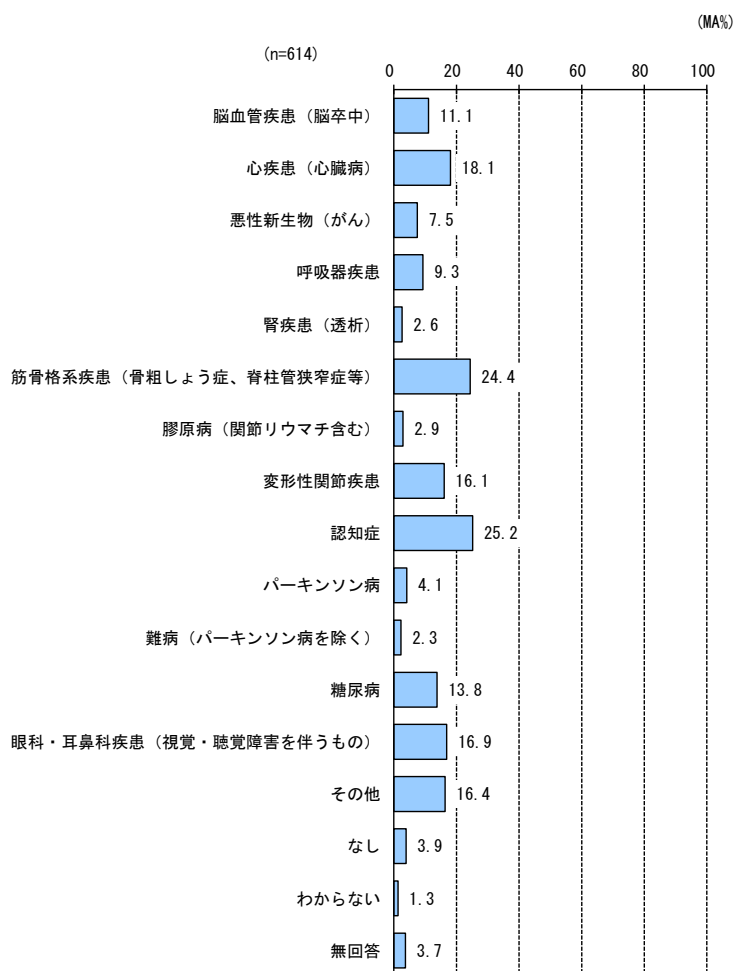
(3) 現在抱えている傷病

●A票 ご本人が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

○ 現在抱えている傷病について、「認知症」が25.2%で最も多く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が24.4%、「心疾患（心臓病）」が18.1%となっています。

【現在抱えている傷病(MA)】



3. 親族による介護

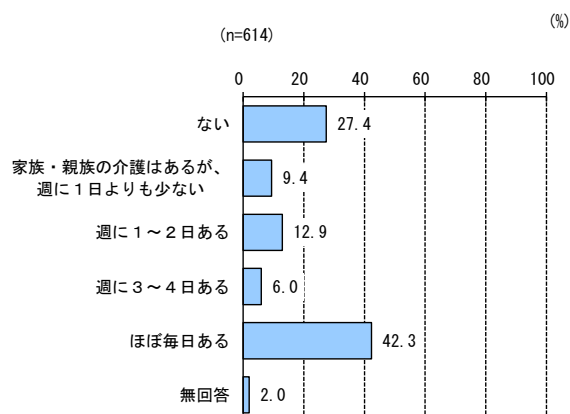
(1) 介護の頻度

●A票 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(1つだけ○)

【全体】

○ 介護の頻度について、「ほぼ毎日ある」が 42.3%で最も多く、次いで「ない」が 27.4%、「週に1～2日ある」が 12.9%となっています。

【介護の頻度】



(2) 主な介護者の属性

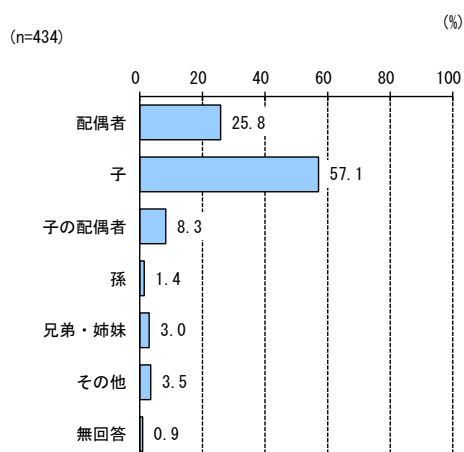
① 主な介護者

●A票 主な介護者の方は、どなたですか。(1つだけ○)

【全体】

○ 主な介護者について、「子」が 57.1%で最も多く、次いで「配偶者」が 25.8%、「子の配偶者」が 8.3%となっています。

【主な介護者】



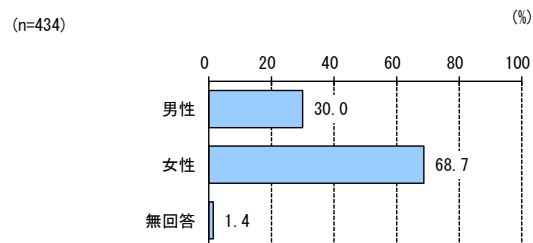
② 介護者の性別

●A票 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（1つだけ○）

【全体】

○ 主な介護者の性別について、「男性」が30.0%、「女性」が68.7%となっています。

【主な介護者の性別】



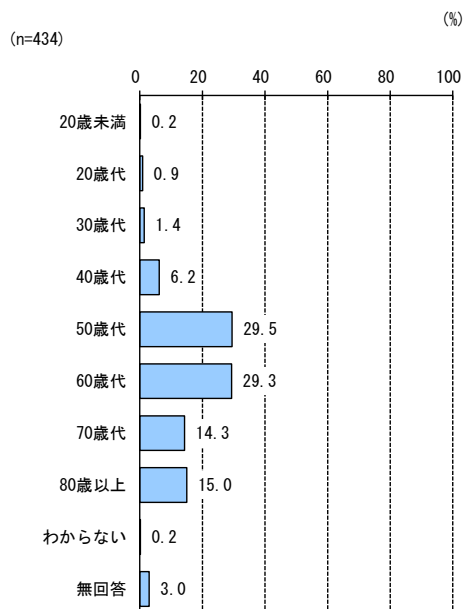
③ 介護者の年齢

●A票 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（1つだけ○）

【全体】

○ 主な介護者の年齢について、「50 歳代」が 29.5%で最も多く、次いで「60 歳代」が 29.3%、「80 歳以上」が 15.0%となっています。

【主な介護者の年齢】



(3) 介護の内容

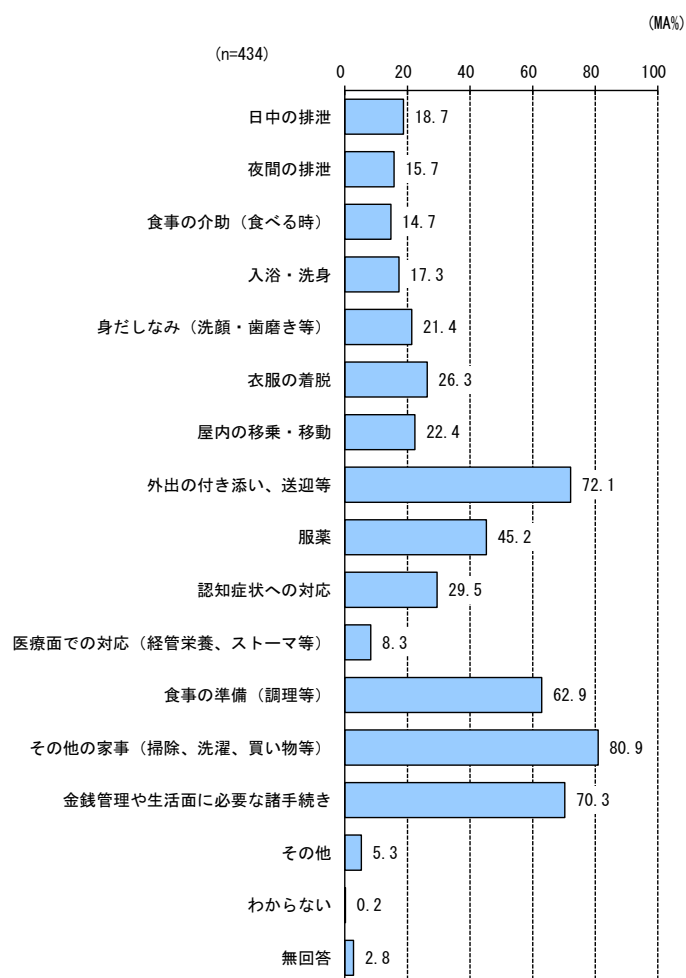
① 現在行っている介護

- A票 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。
(いくつでも○)

【全体】

- 主な介護者が行う介護について、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 80.9%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が72.1%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が70.3%となっています。

【主な介護者が行う介護(MA)】



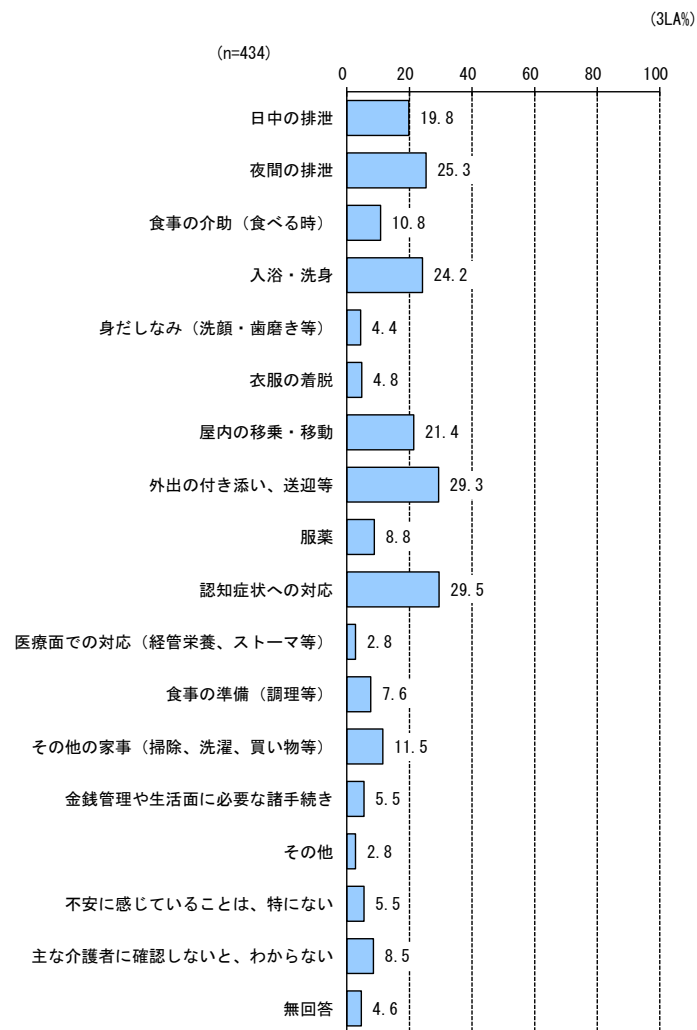
② 不安に感じる介護

- B票 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください。（3つまで○）

【全体】

- 不安に感じる介護について、「認知症状への対応」が29.5%で最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が29.3%、「夜間の排泄」が25.3%となっています。

【不安に感じる介護(3LA)】



(4) 介護離職

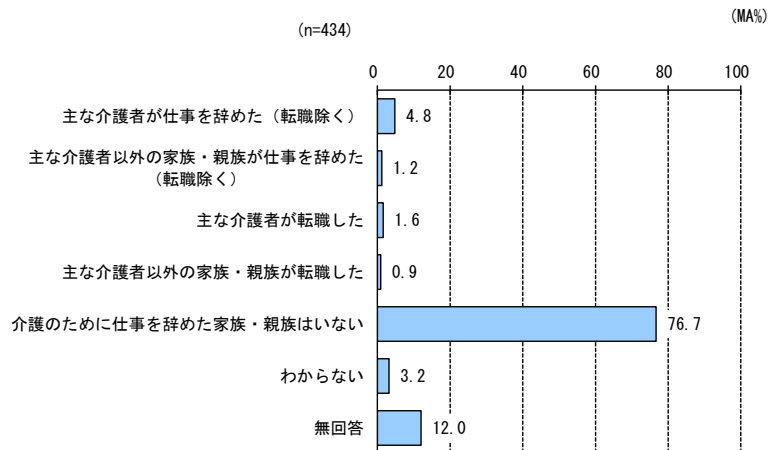
① 介護離職者の有無

- A票 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。（いくつでも○）

【全体】

- 介護離職について、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が76.7%で最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が4.8%、「わからない」が3.2%となっています。

【介護離職(MA)】



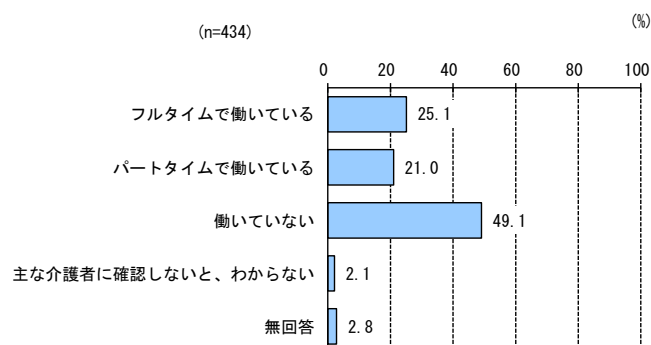
② 主な介護者の勤務形態

- B票 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。（1つだけ○）

【全体】

- 主な介護者の勤務形態について、「働いていない」が49.1%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が25.1%、「パートタイムで働いている」が21.0%となっています。

【主な介護者の勤務形態】



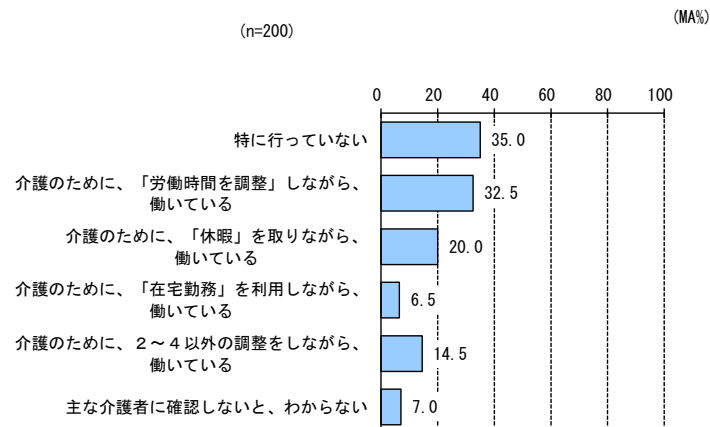
③ 働き方の調整

- B票 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしてい
すか。(いくつでも○)

【全体】

- 働き方の調整について、「特に行っていない」が 35.0%で最も多く、次いで「介護のため
に、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働い
ている」が 32.5%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いてい
る」が 20.0%となっています。

【働き方の調整(MA)】



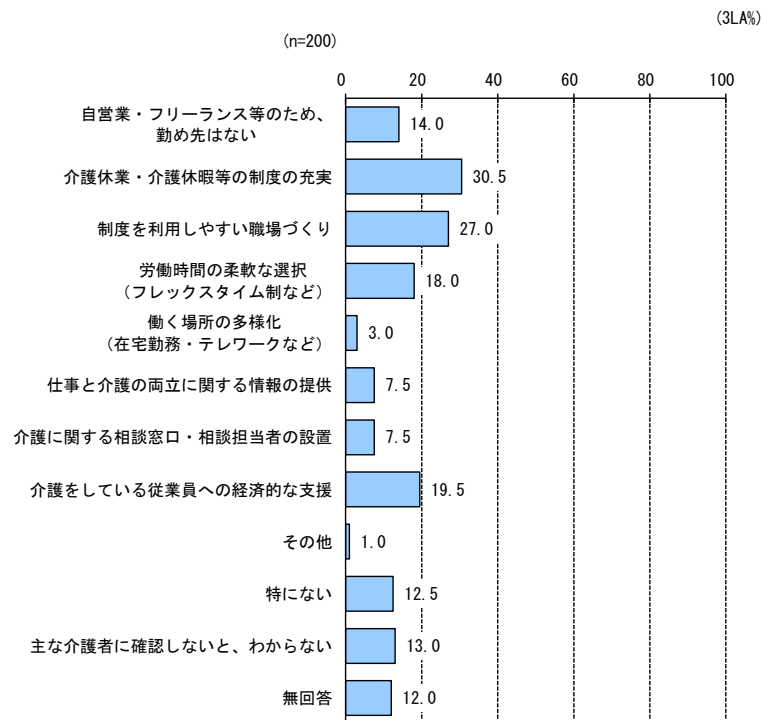
④ 勤め先からの必要な支援

- B票 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3つまで○）

【全体】

- 仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 30.5%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が 27.0%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 19.5%となっています。

【仕事と介護の両立に効果がある勤め先からの支援(3LA)】



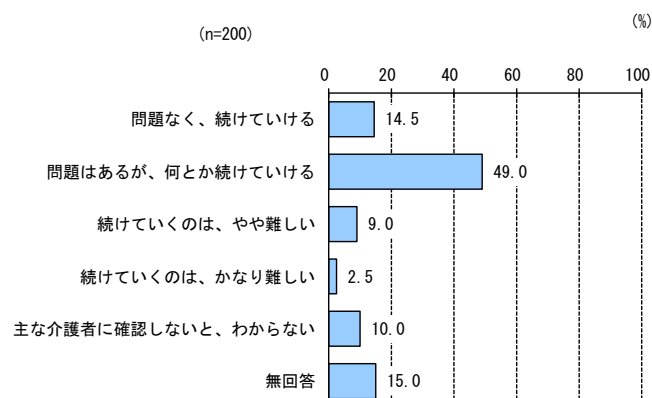
⑤ 今後の介護と仕事の両立

- B票 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1つだけ○）

【全体】

- 今後の仕事と介護の両立について、「問題はあるが、何とか続けていける」が 49.0%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が 14.5%、「主な介護者に確認しないと、わからない」が 10.0%となっています。

【今後の仕事と介護の両立】



4. 支援・サービス

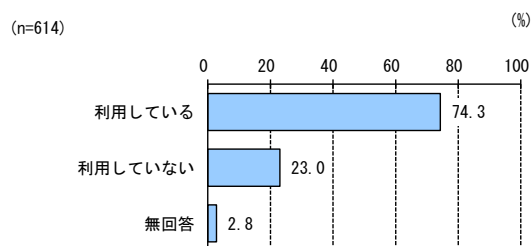
(1) 介護保険サービス（利用状況、満足度、利用していない理由）

- A票 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか。（1つだけ○）

【全体】

- （住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況について、「利用している」が74.3%、「利用していない」が23.0%となっています。

【（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況】

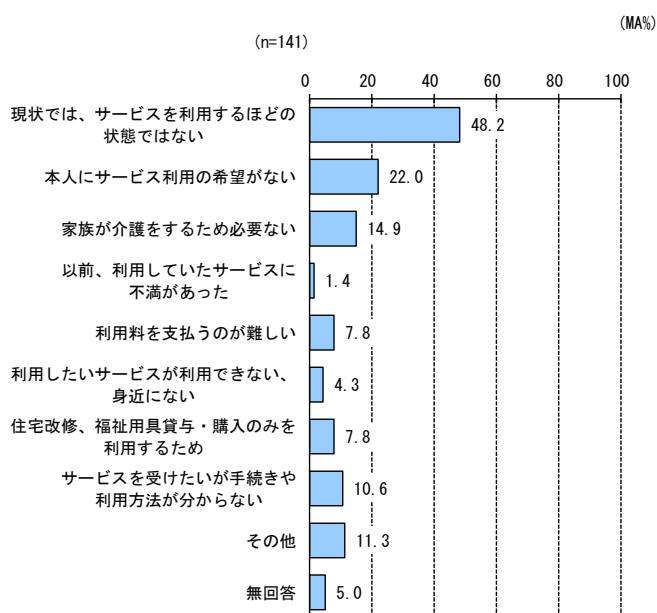


- A票 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（いくつでも○）

【全体】

- 介護保険サービスを利用していない理由について、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が48.2%で最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が22.0%、「家族が介護をするため必要ない」が14.9%となっています。

【介護保険サービスを利用していない理由(MA)】



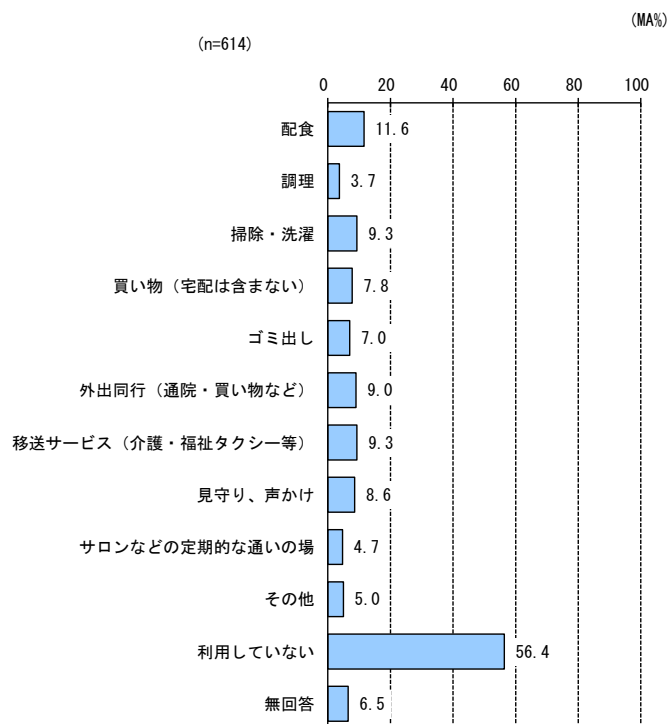
(2) 介護保険サービス以外の支援・サービス

- A票 現在、利用している「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(いくつでも○)

【全体】

- 利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについて、「利用していない」が56.4%で最も多く、次いで「配食」が11.6%、「掃除・洗濯」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が9.3%となっています。

【利用している介護保険サービス以外の支援・サービス (MA)】



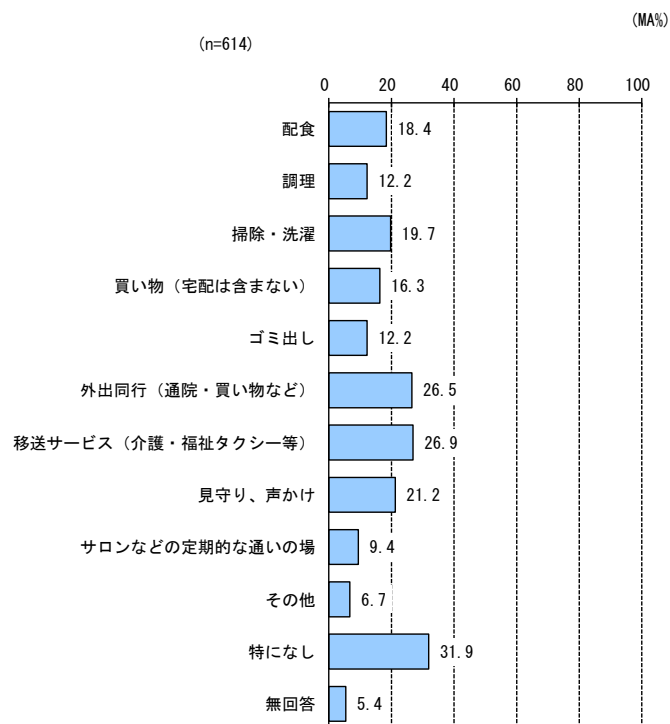
(3) 在宅生活に必要な支援・サービス

- A票 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについて、ご回答ください。
(いくつでも○)

【全体】

- 在宅生活の継続に必要な支援・サービスについて、「特になし」が31.9%で最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が26.9%、「外出同行（通院・買い物など）」が26.5%となっています。

【在宅生活の継続に必要な支援・サービス (MA)】



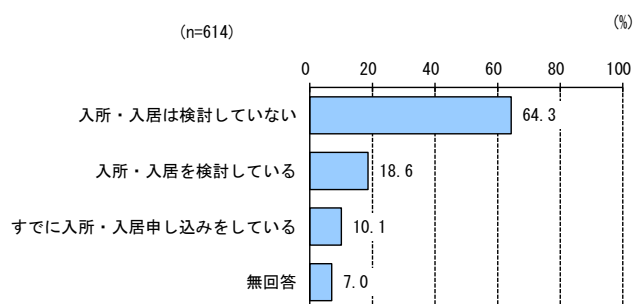
(4) 施設等への入所・入居の検討状況

- A票 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。
(1つだけ○)

【全体】

- 施設等への入所・入居の検討状況について、「入所・入居は検討していない」が64.3%で最も多く、次いで「入所・入居を検討している」が18.6%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が10.1%となっています。

【施設等への入所・入居の検討状況】



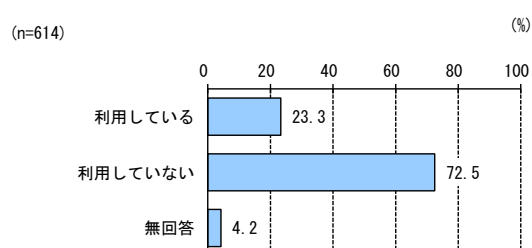
(5) 訪問診療の利用状況

- A票 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか。（1つだけ○）

【全体】

- 訪問診療の利用有無について、「利用している」が23.3%、「利用していない」が72.5%となっています。

【訪問診療の利用有無】



5. 認定データを使用した集計

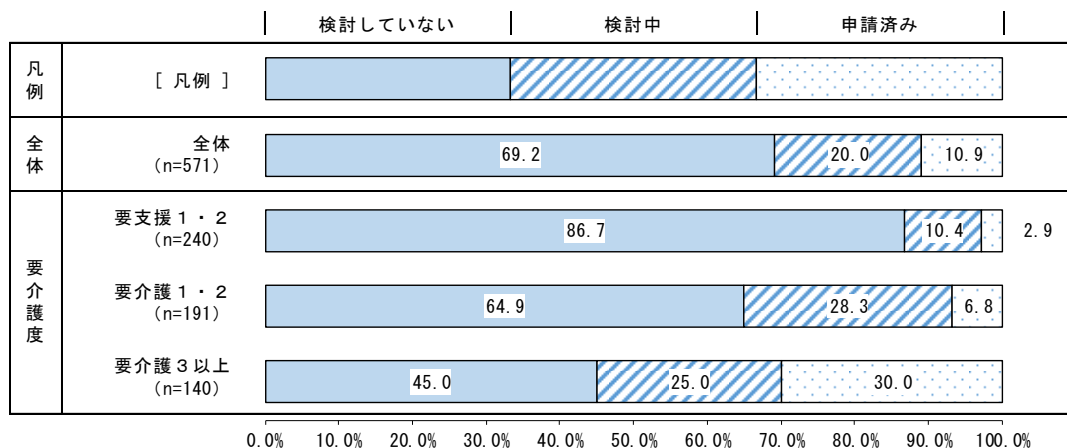
(1) 在宅限界点向上のための支援・サービスの提供体制の検討

① 施設等への入所・入居の検討状況

●要介護度

【要介護3以上】

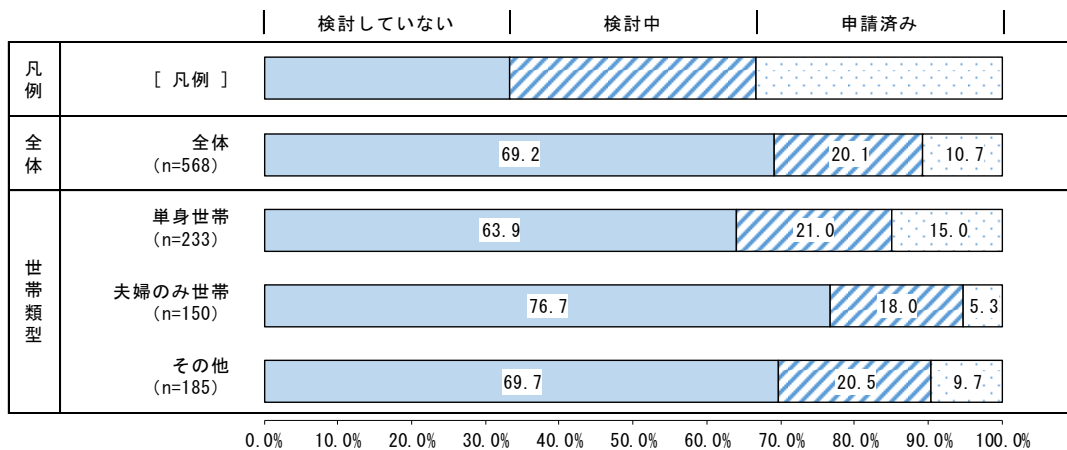
○ 「検討していない」が45.0%、「検討中」が25.0%となっています。



●世帯類型

【単身世帯】

○ 「検討していない」が63.9%となっています。



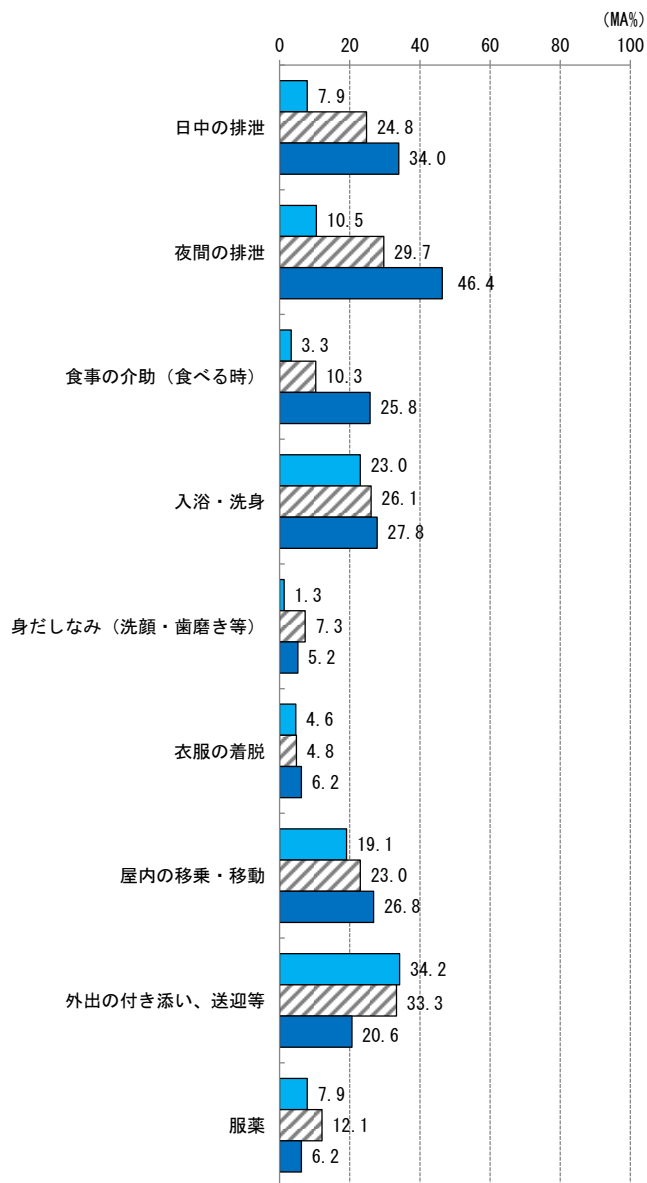
② 介護者が不安に感じる介護

●要介護度

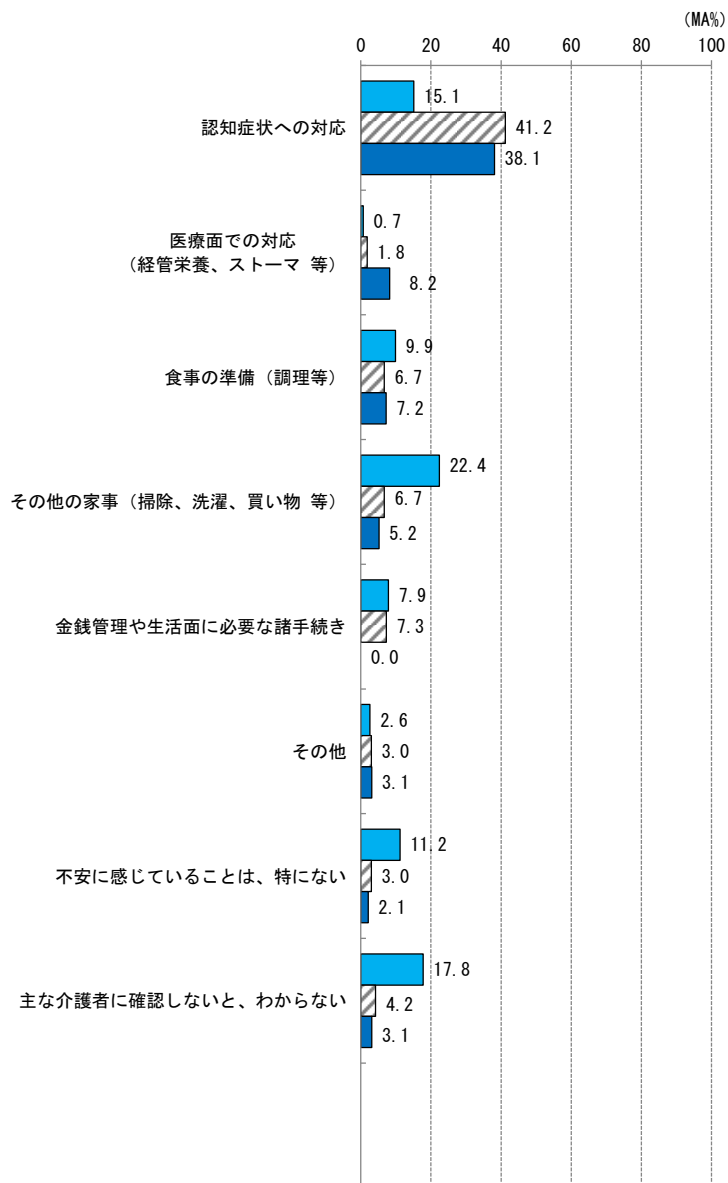
【全体】

- 要介護度が高くなるほど「日中の排泄」「夜間の排泄」「食事の介助（食べる時）」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」を不安に感じる介護者が多くなる傾向がみられます。

■要支援 1・2 (n=152) □要介護 1・2 (n=165) ■要介護 3 以上 (n=97)



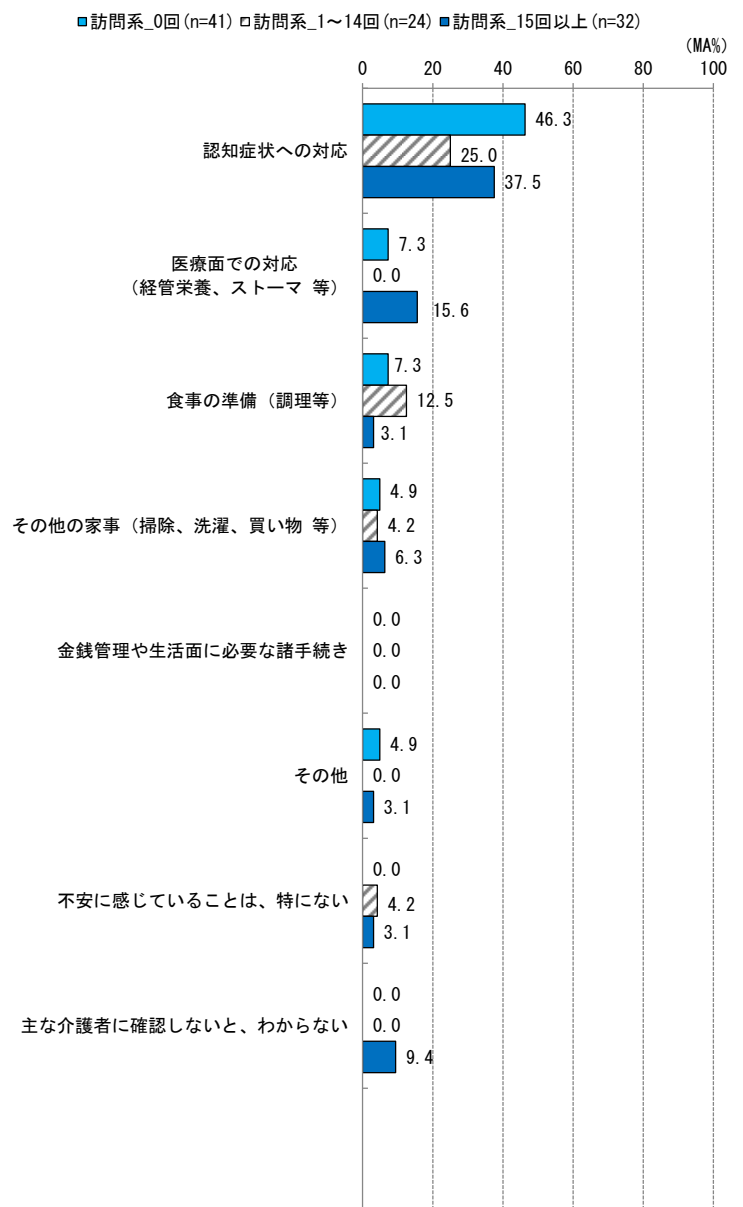
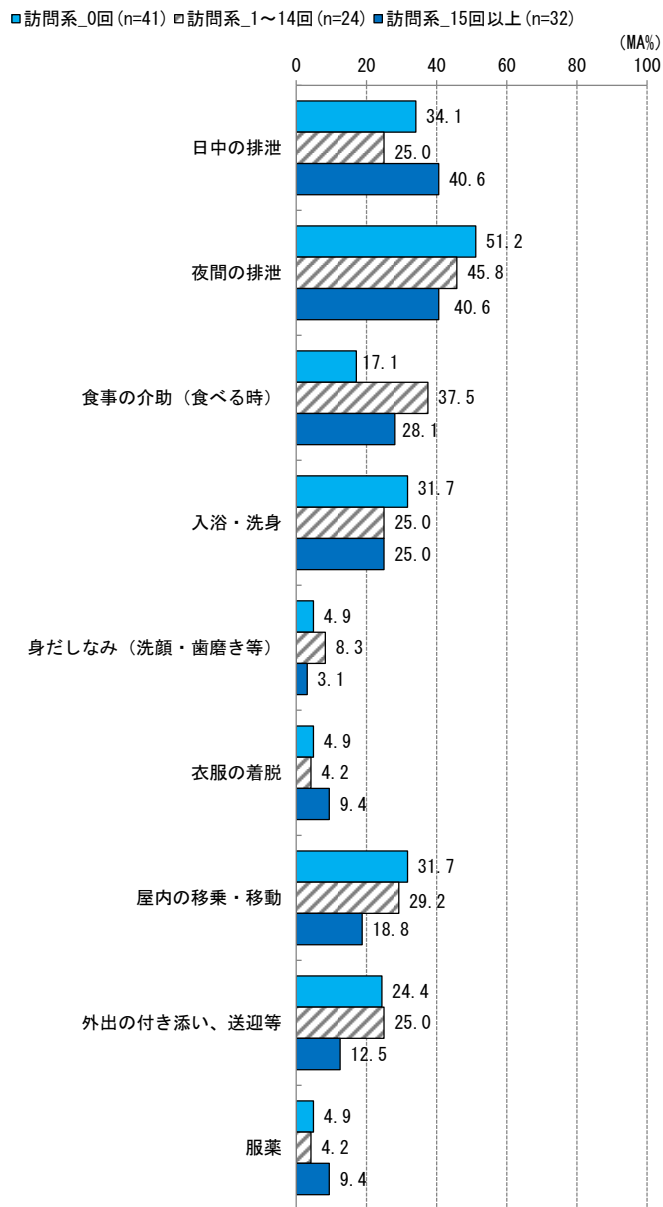
■要支援 1・2 (n=152) □要介護 1・2 (n=165) ■要介護 3 以上 (n=97)



●訪問系サービスの利用状況（要介護3以上）

【全体】

- 訪問系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「夜間の排泄」「入浴・洗身」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」を不安に感じる介護者が少なくなる傾向がみられます。
- 訪問系サービスを利用していない人では、「認知症状への対応」を不安に感じる介護者が46.3%と多くなっています。

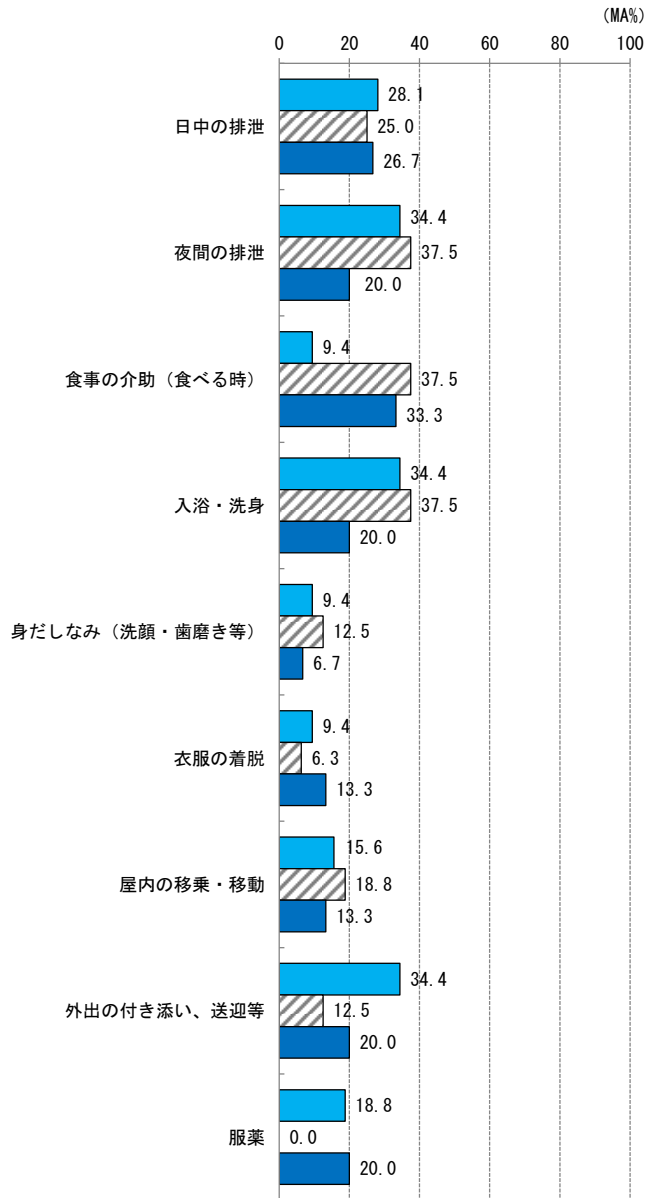


●訪問系サービスの利用状況（認知症自立度Ⅲ以上）

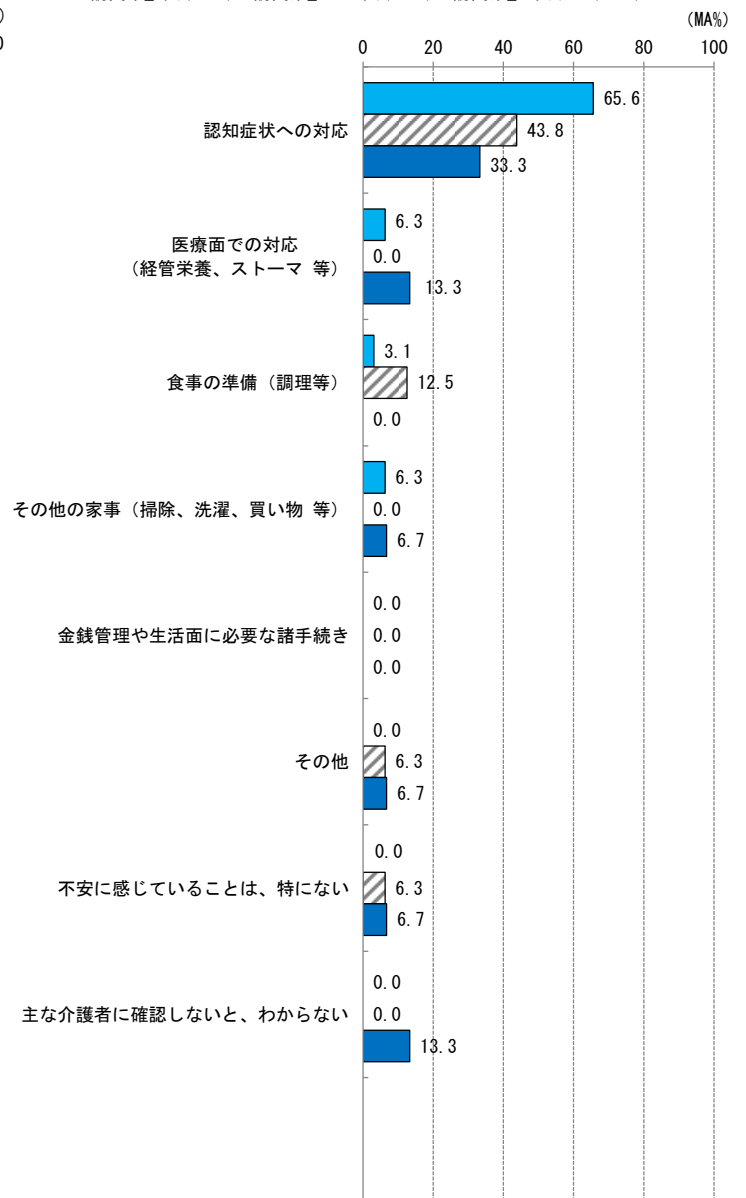
【全体】

○ 訪問系サービスを利用していない人に比べて、利用している人では「食事の介助（食べる時）」を不安を感じる介護者が多くなっています。

■訪問系_0回 (n=32) □訪問系_1～14回 (n=16) ■訪問系_15回以上 (n=15)



■訪問系_0回 (n=32) □訪問系_1～14回 (n=16) ■訪問系_15回以上 (n=15)

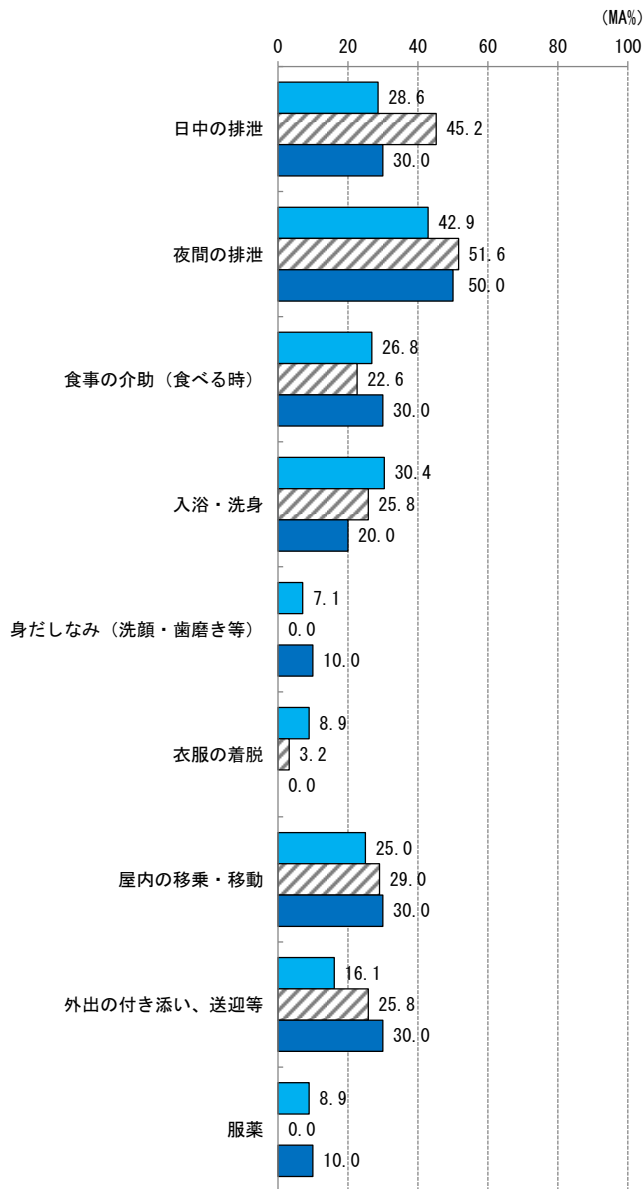


●通所系サービスの利用状況（要介護3以上）

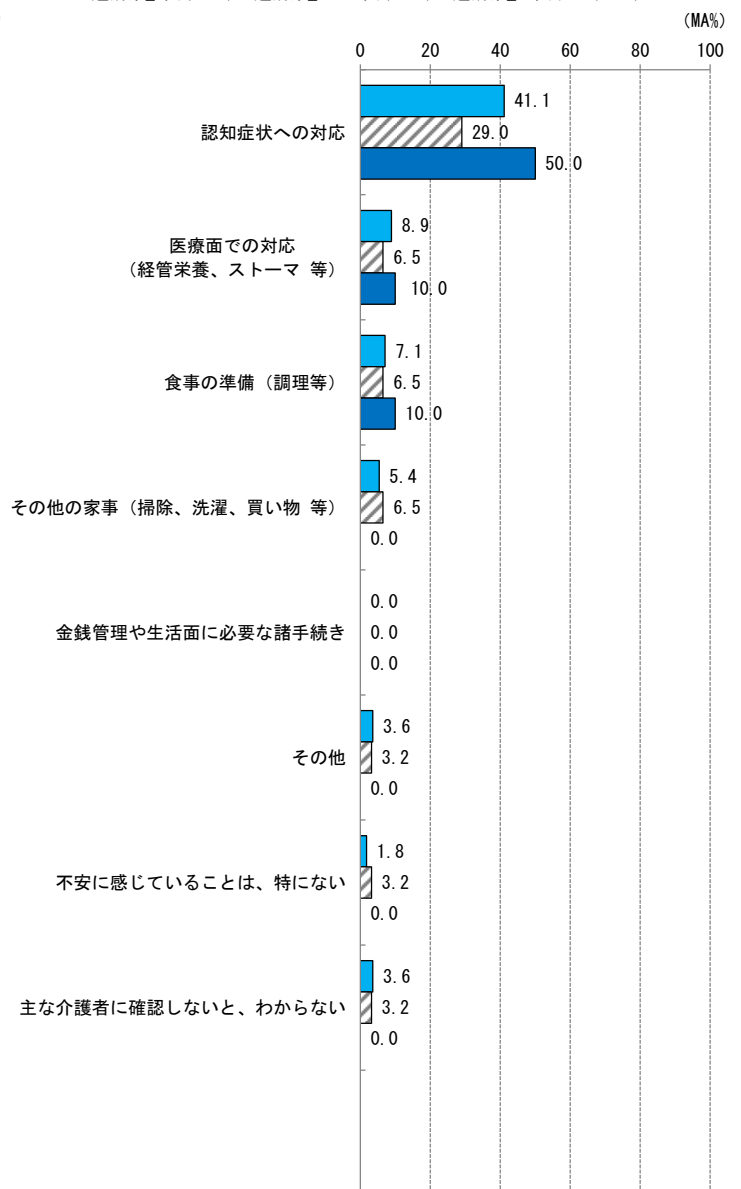
【全体】

○ 通所系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「夜間の排泄」「屋内の移乗・移動」「外出の付き添い、送迎等」を不安に感じる介護者が多くなる傾向がみられます。

■通所系_0回 (n=56) ■通所系_1~14回 (n=31) ■通所系_15回以上 (n=10)



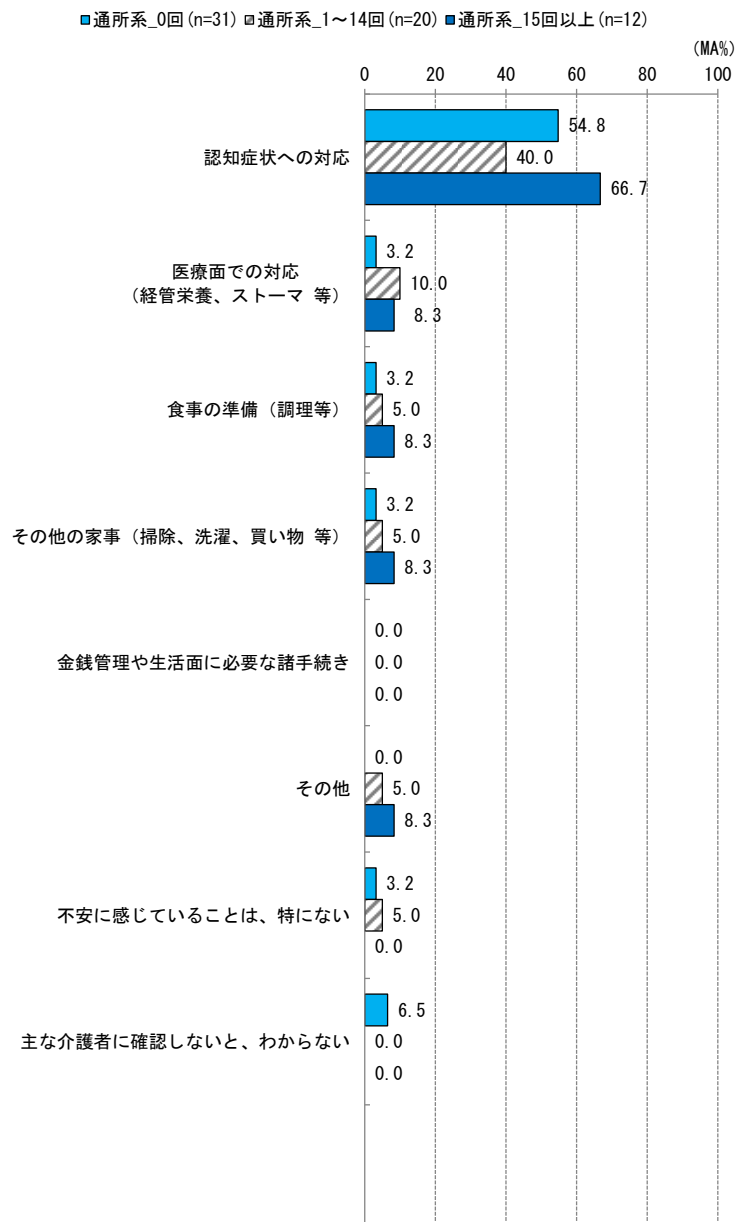
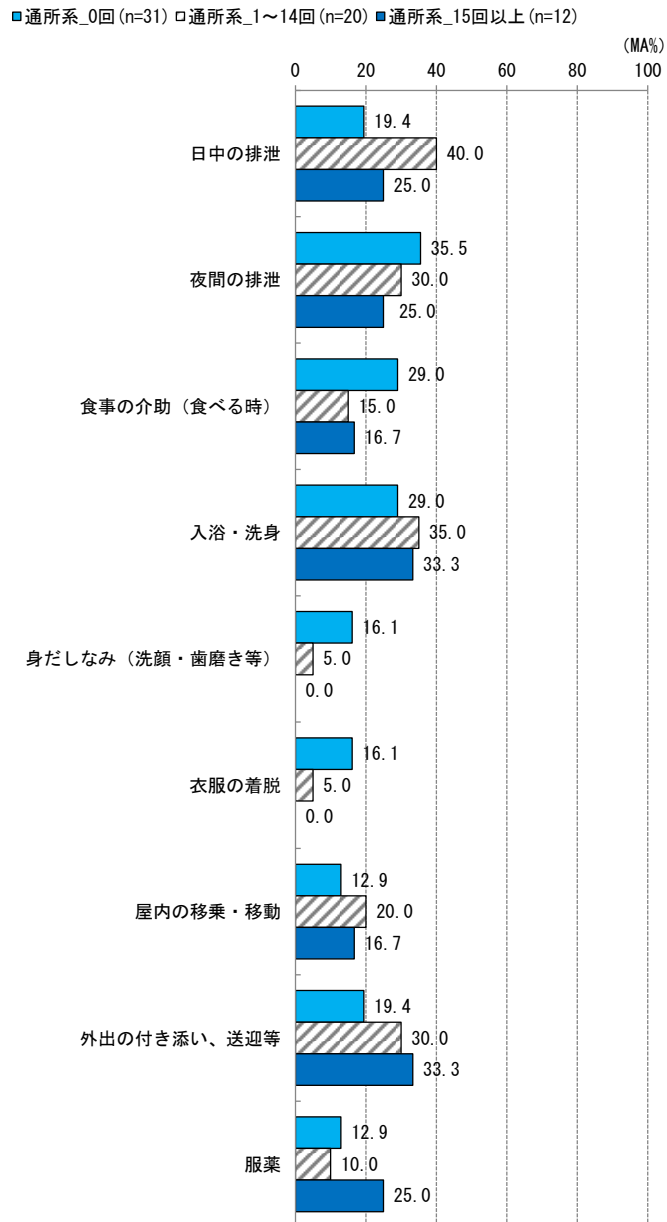
■通所系_0回 (n=56) ■通所系_1~14回 (n=31) ■通所系_15回以上 (n=10)



●通所系サービスの利用状況（認知症自立度Ⅲ以上）

【全体】

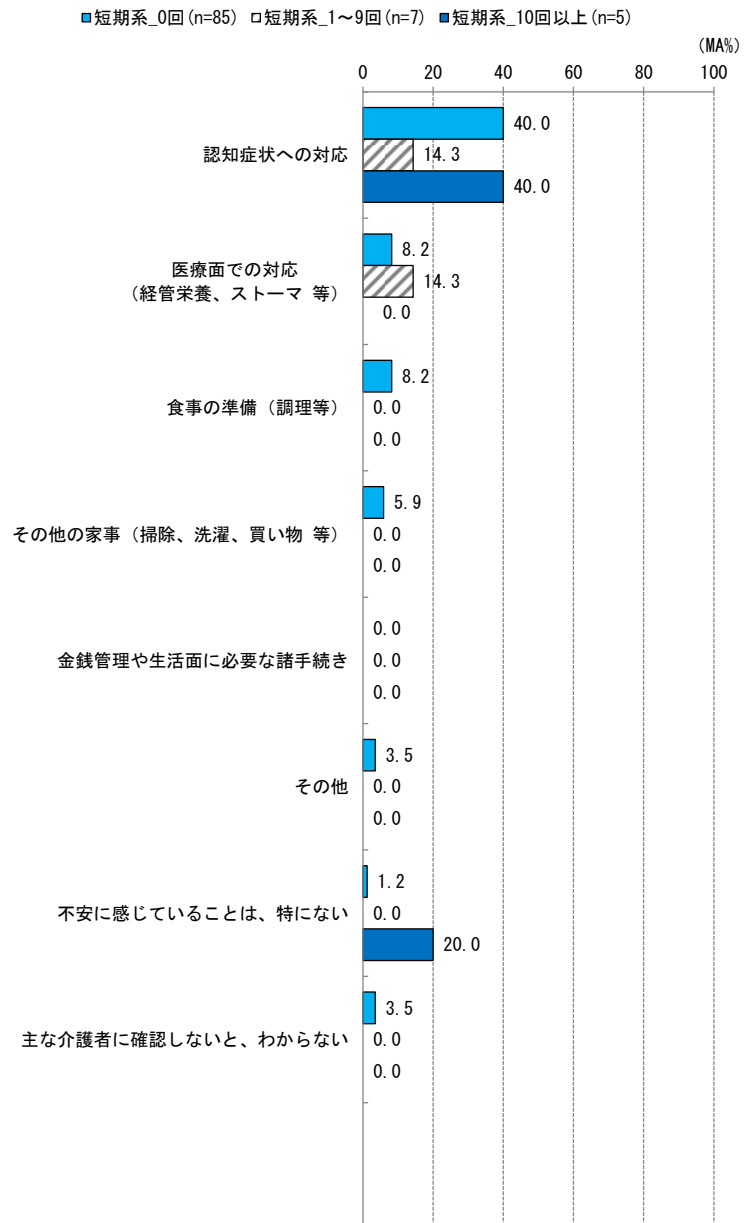
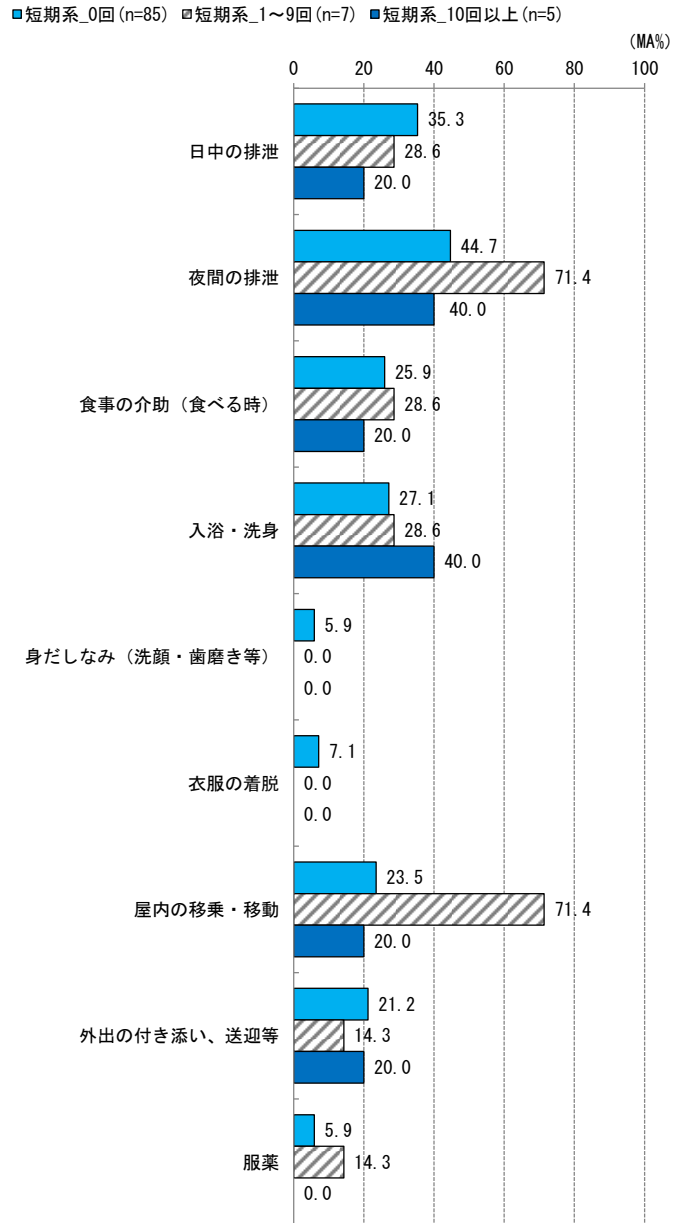
- 通所系サービスの利用回数が多くなるにつれて、「外出の付き添い、送迎等」「食事の準備（調理等）」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」を不安に感じる介護者が多くなる傾向がみられます。



●短期系サービスの利用状況（要介護3以上）

【全体】

○ 短期系サービスを利用していない人では、「夜間の排泄」「認知症状への対応」を不安に感じる介護者が多くなっています。

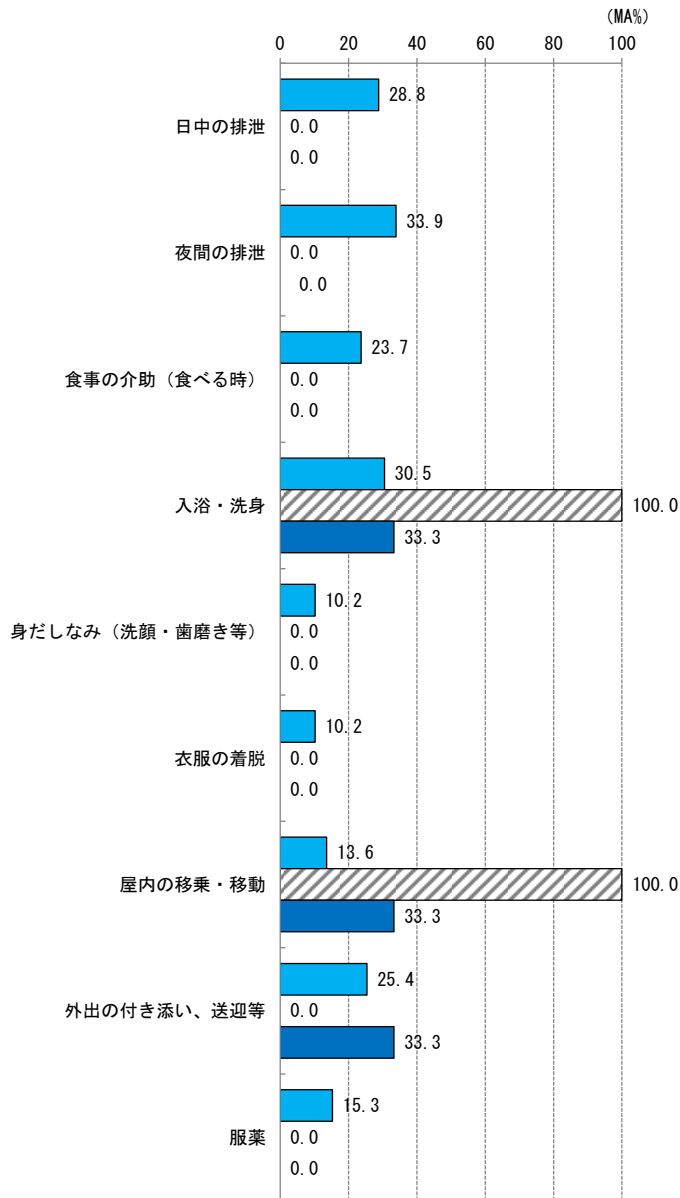


●短期系サービスの利用状況（認知症自立度Ⅲ以上）

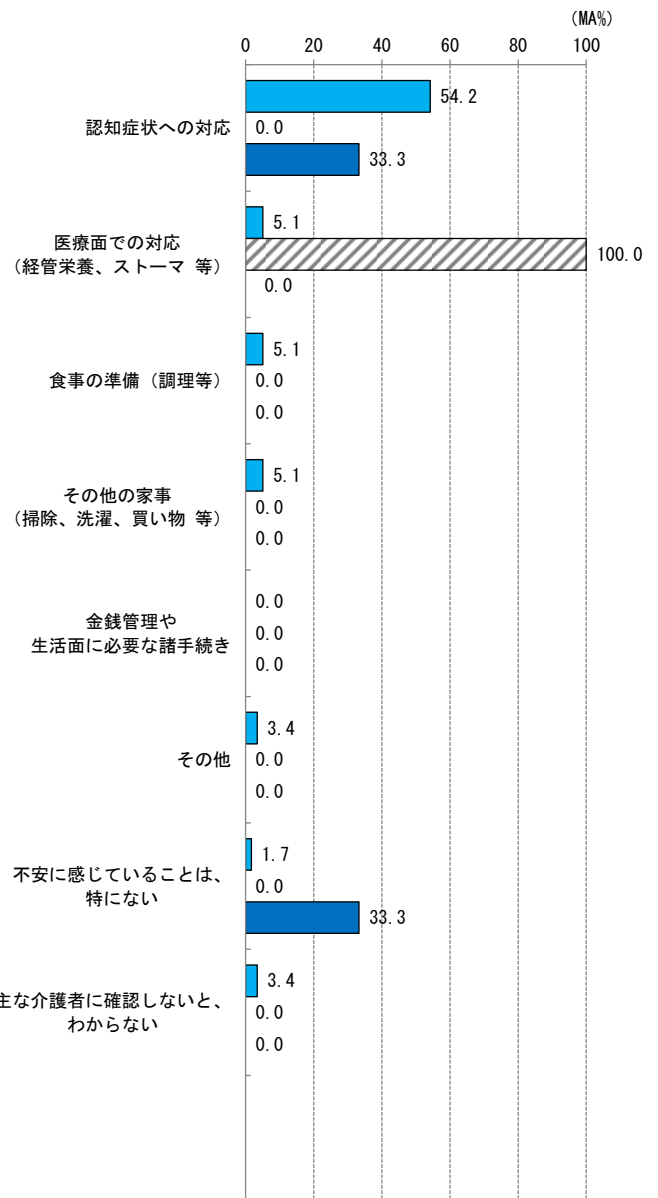
【全体】

○ 短期系サービスを利用していない人では、「認知症状への対応」「夜間の排泄」を不安に感じる介護者が多くなっています。

■短期系_0回 (n=59) □短期系_1～9回 (n=1) ■短期系_10回以上 (n=3)



■短期系_0回 (n=59) □短期系_1～9回 (n=1) ■短期系_10回以上 (n=3)



(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

① 介護者の就労状況

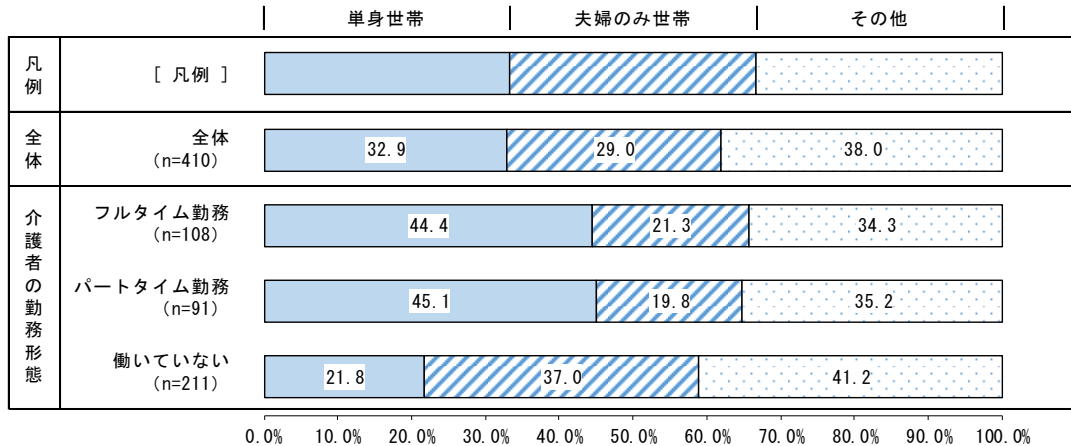
●世帯類型

【フルタイム勤務】

- 「単身世帯」が44.4%となっています。

【フルタイム勤務】

- 「単身世帯」が45.1%となっています。



●主な介護者

【フルタイム勤務】

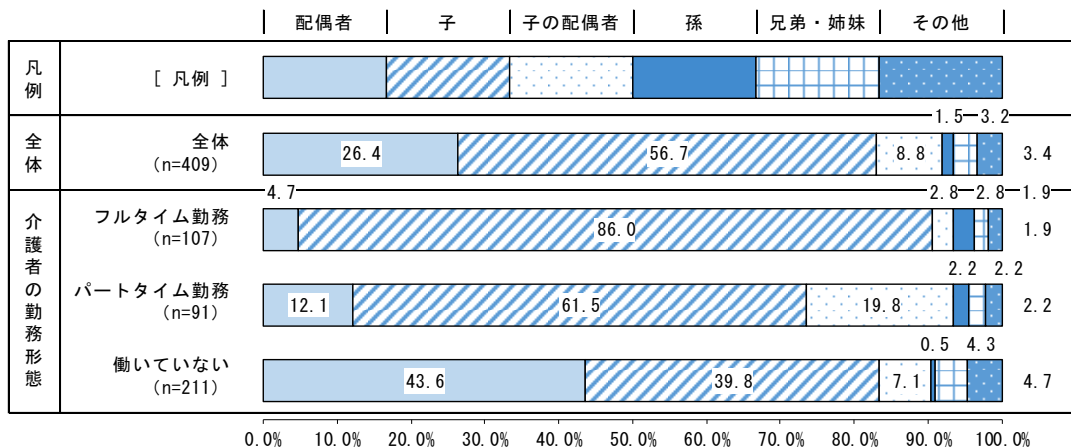
- 「子」が約9割と多くなっています。

【パートタイム勤務】

- 「子の配偶者」が19.8%と他の区分に比べて多くなっています。

【働いていない】

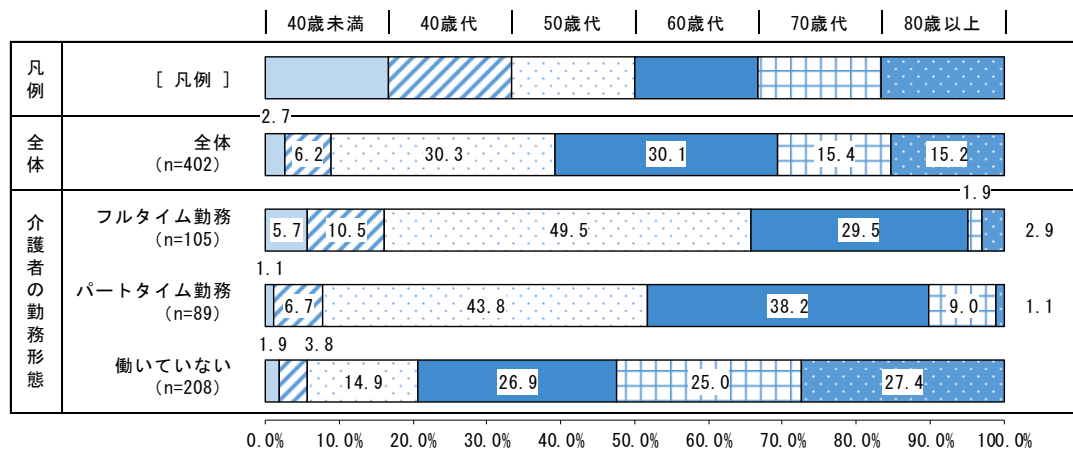
- 「配偶者」、「子」が約4割と多くなっています。



●主な介護者の年齢

【全体】

- 就労時間が短くなるにつれて、主な介護者の年齢が高くなる傾向がみられます。



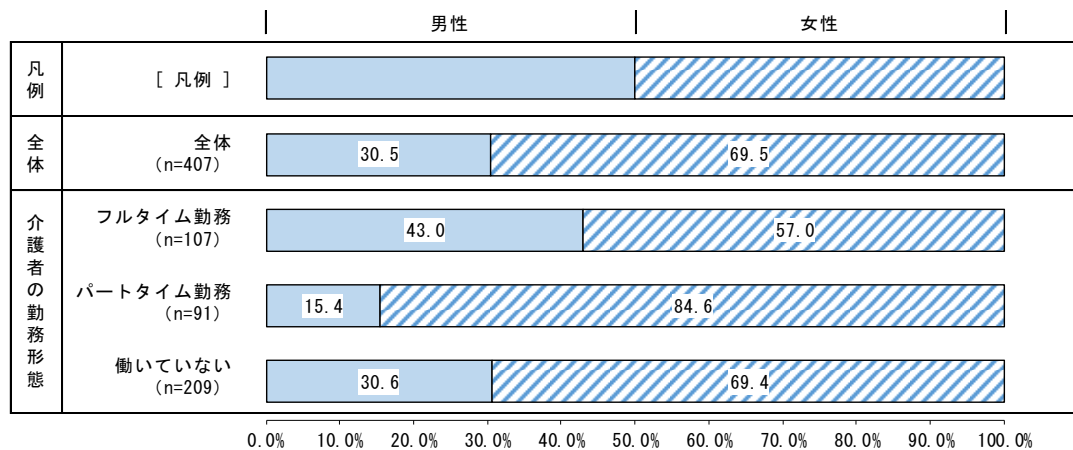
●主な介護者の性別

【全体】

- いずれの就労状況でも、「女性」が多くなっています。

【パートタイム勤務】

- 「女性」が84.6%と多くなっています。



●本人の要介護度

【全体】

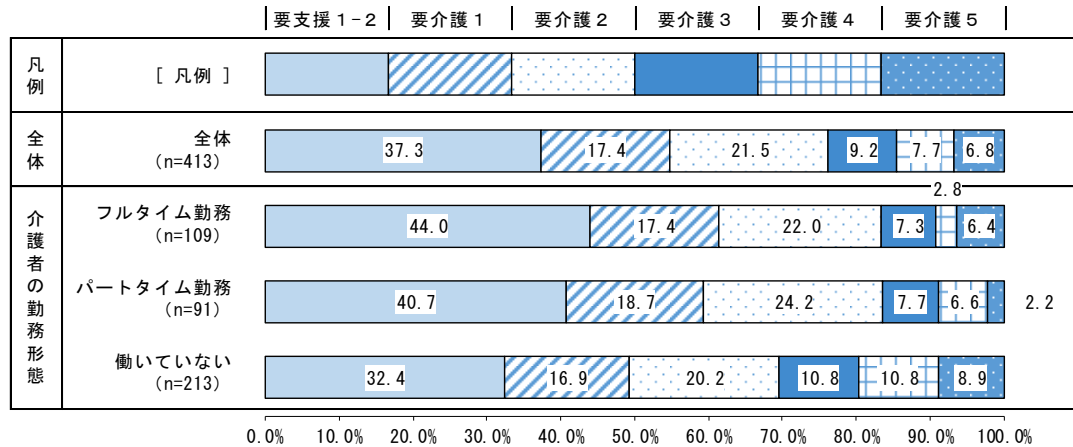
○ 就労時間が長くなるにつれて、重度者が少なくなる傾向がみられます。

【フルタイム勤務】

○ “要介護3以上”が16.5%となっています。

【パートタイム勤務】

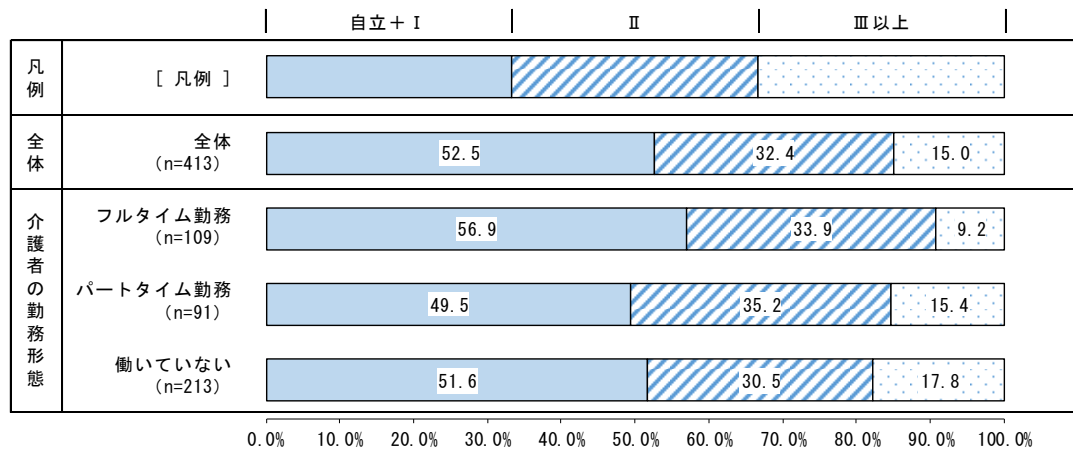
○ “要介護3以上”が16.5%となっています。



●本人の認知症自立度

【全体】

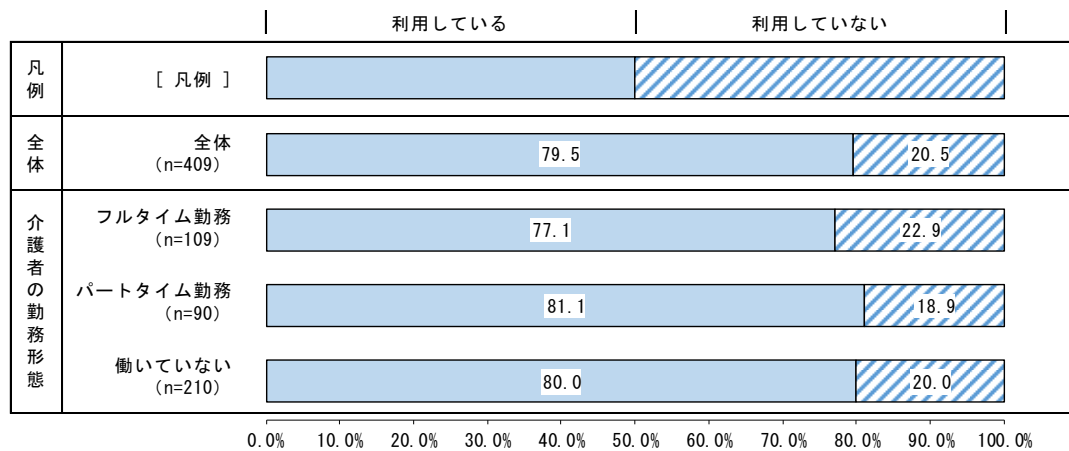
○ 就労時間が長くなるにつれて、重度者が少なくなる傾向がみられます。



●介護保険サービスの利用有無

【全体】

- 就労時間が長くなるにつれて、「利用していない」が多くなる傾向がみられます。



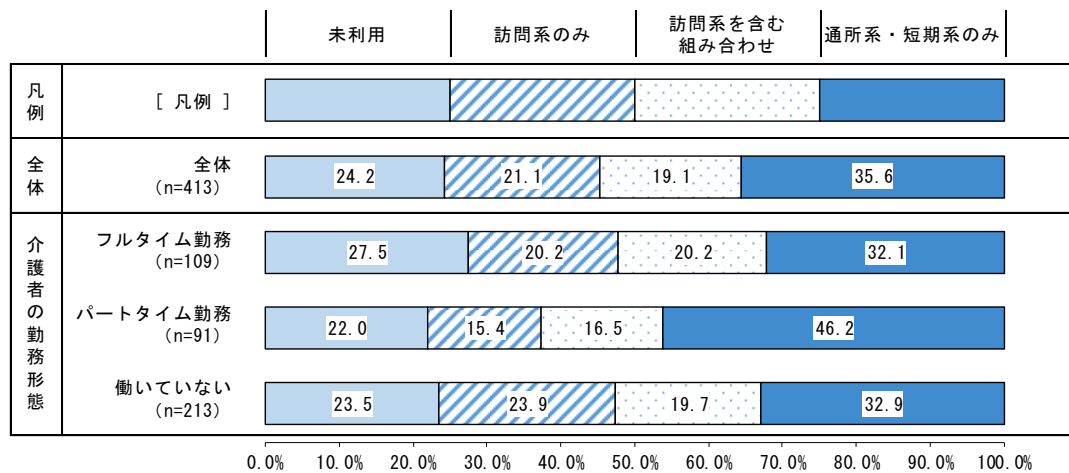
●サービス利用の組み合わせ

【フルタイム勤務】

- 「未利用」が27.5%と他の区分に比べて多くなっています。

【パートタイム勤務】

- 「通所系・短期系のみ」が46.2%と他の区分に比べて多くなっています。

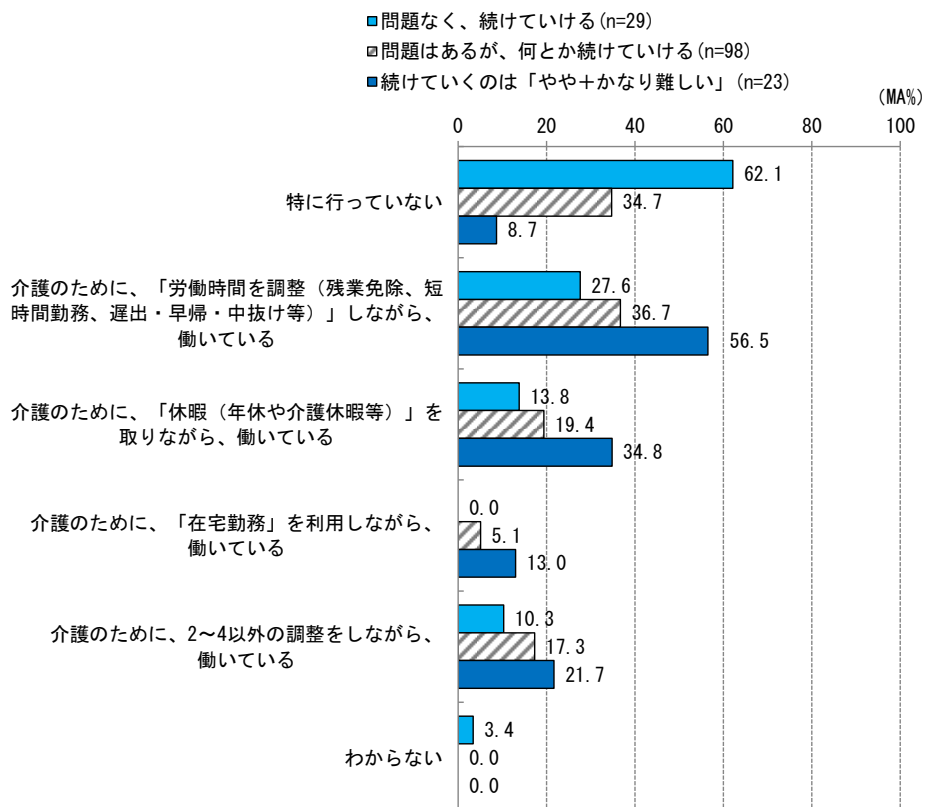


② 介護者の就労継続見込み

●介護のための働き方の調整

【全体】

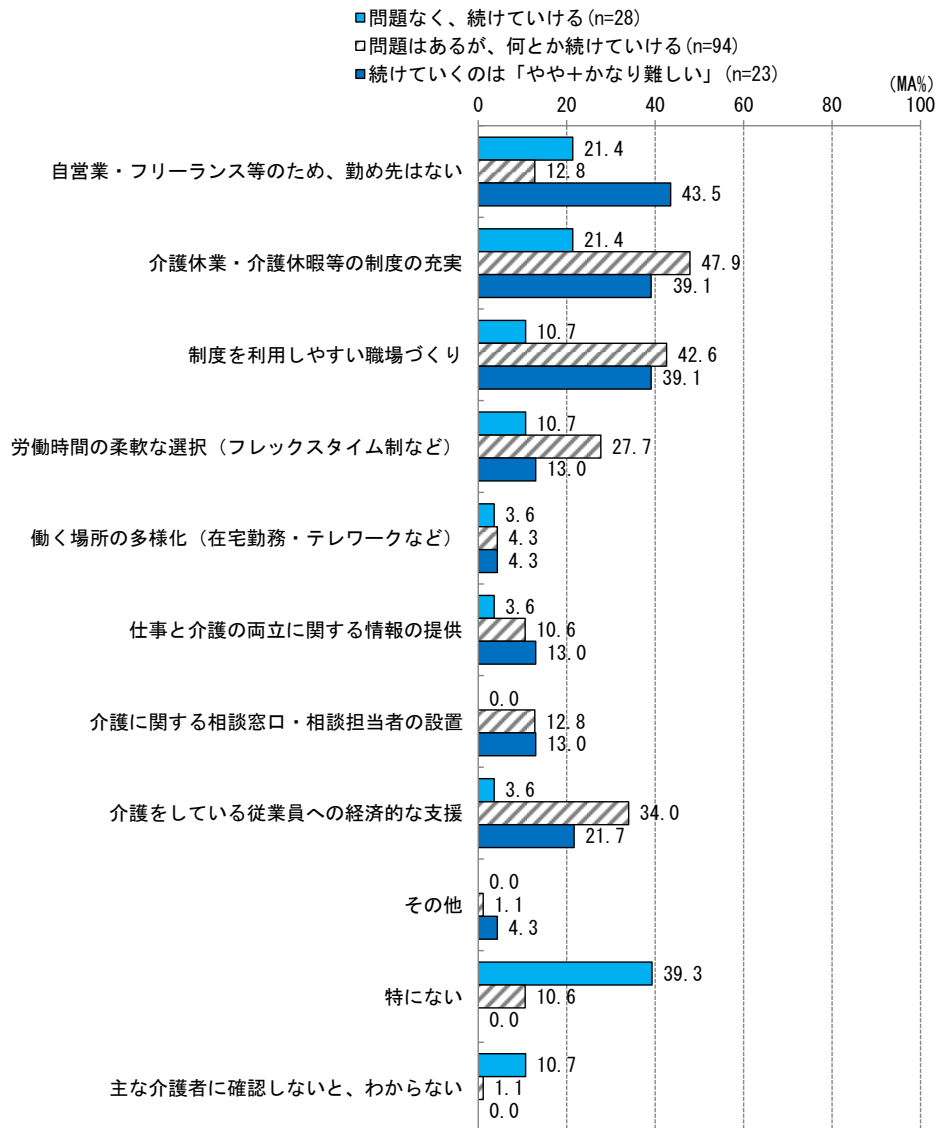
- 就労継続に問題を抱えている人ほど、介護のために働き方の調整を行っている傾向があります。
- 問題はあるが、何とか続けている人では、「特に行っていない」が34.7%となっています。



●勤め先から必要な支援

【全体】

- 就労継続に問題を抱えている人では、問題がない人に比べて「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「制度を利用しやすい職場づくり」「介護をしている従業員への経済的な支援」の割合が多くなっています。



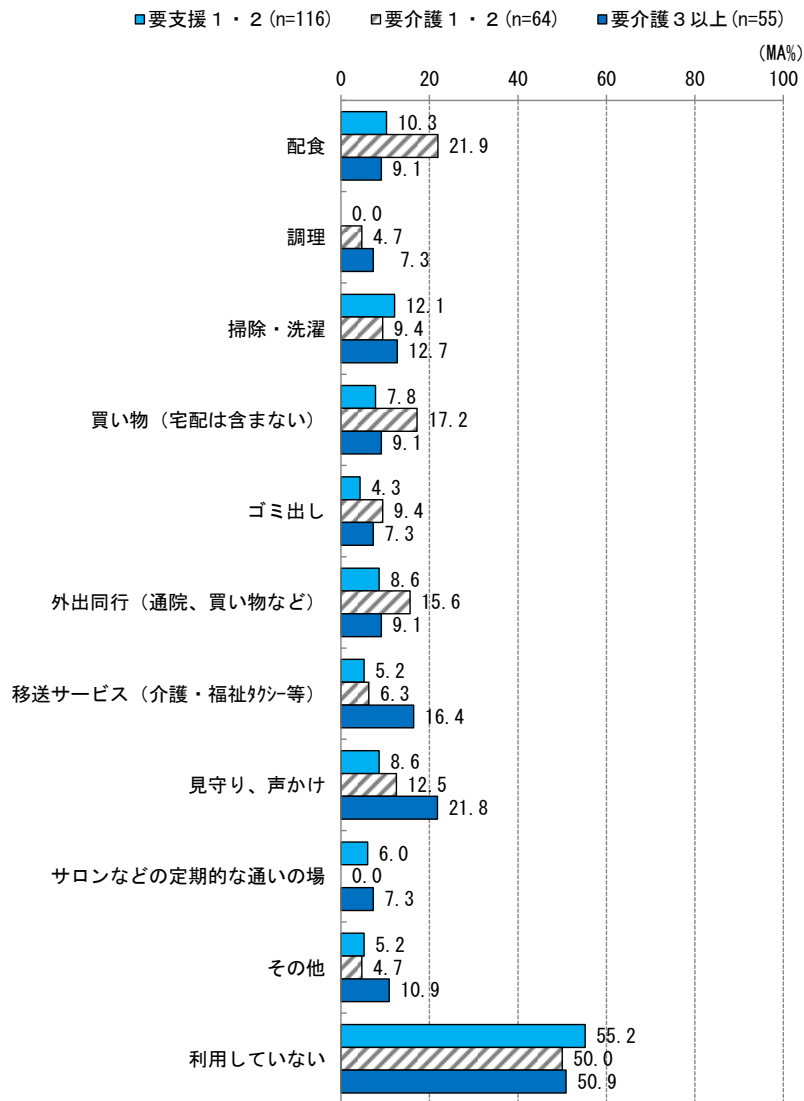
(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

① 保険外の支援・サービスの利用状況

● 単身世帯

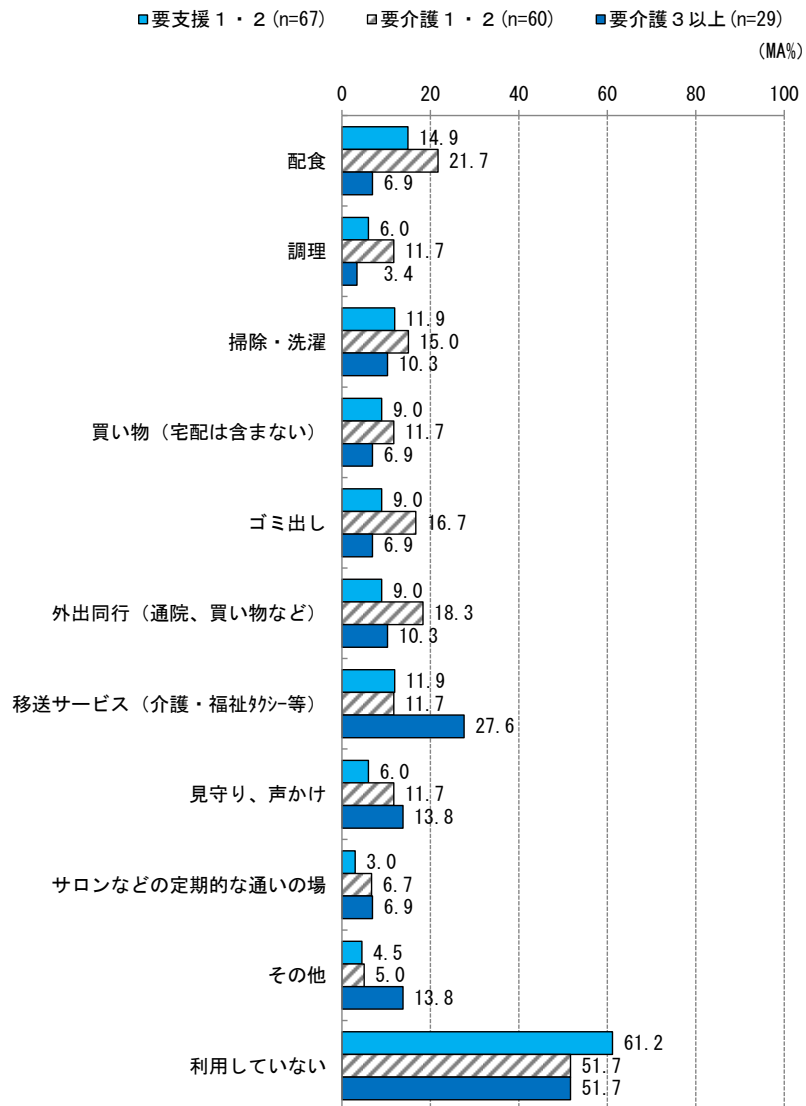
【全体】

- 要介護度が高くなるにつれて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が多くなる傾向がみられます。
- いずれの要介護度でも「利用していない」が約5～6割となっています。



【全体】

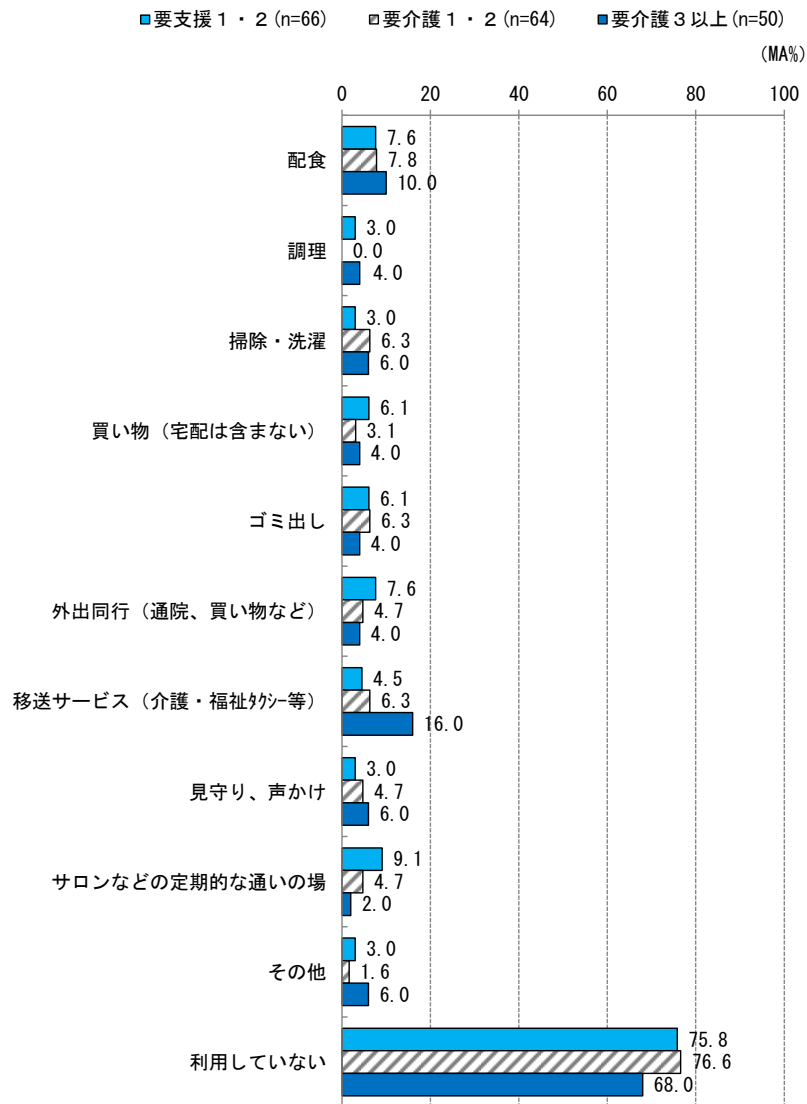
- 要介護度が高くなるにつれて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り、声かけ」の利用が多くなる傾向がみられます。
- いずれの要介護度でも「利用していない」が約5～6割となっています。



●その他世帯

【全体】

- 要介護度が高くなるにつれて、「配食」「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り、声かけ」の利用が多くなる傾向がみられます。
- いずれの要介護度でも「利用していない」が約7～8割となっています。

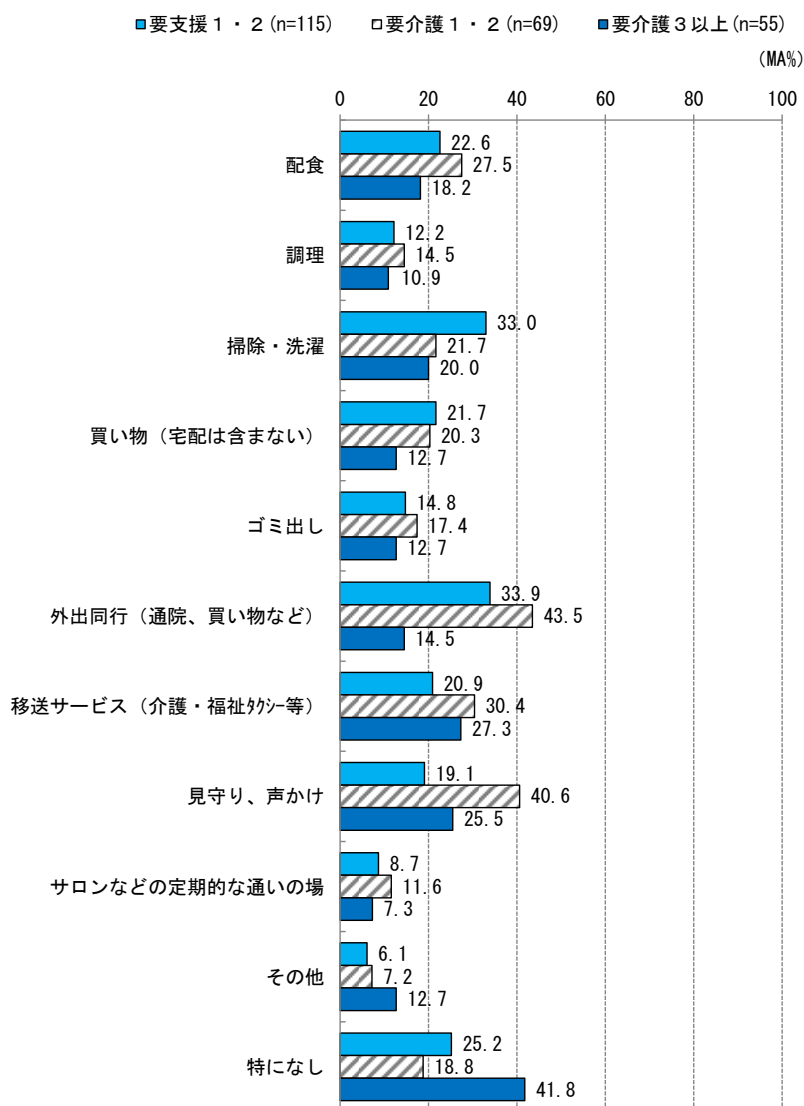


② 在宅生活の継続に必要な支援・サービス

●単身世帯

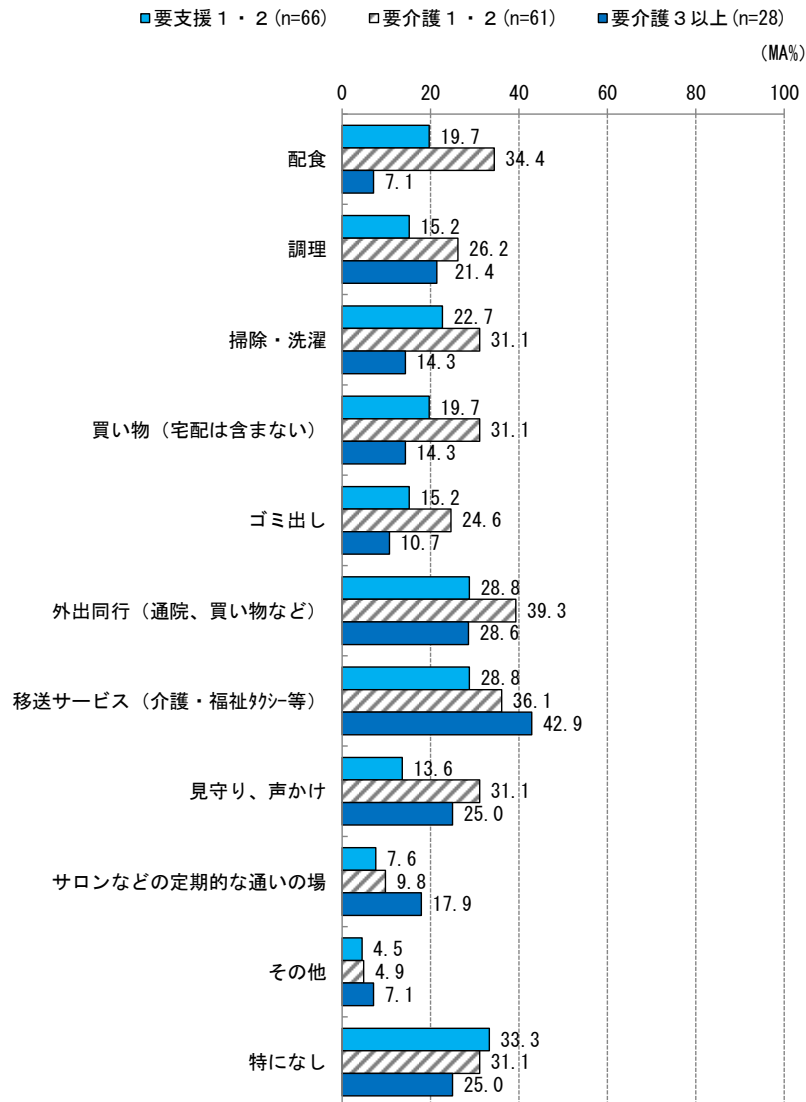
【全体】

- 要支援１・２、要介護１・２では「外出同行（通院、買い物など）」が多くなっている一方で、要介護３以上では14.5%と少なくなっています。
- 要介護度が高くなるにつれて、「掃除・洗濯」が必要な人が少なくなる傾向がみられます。



【全体】

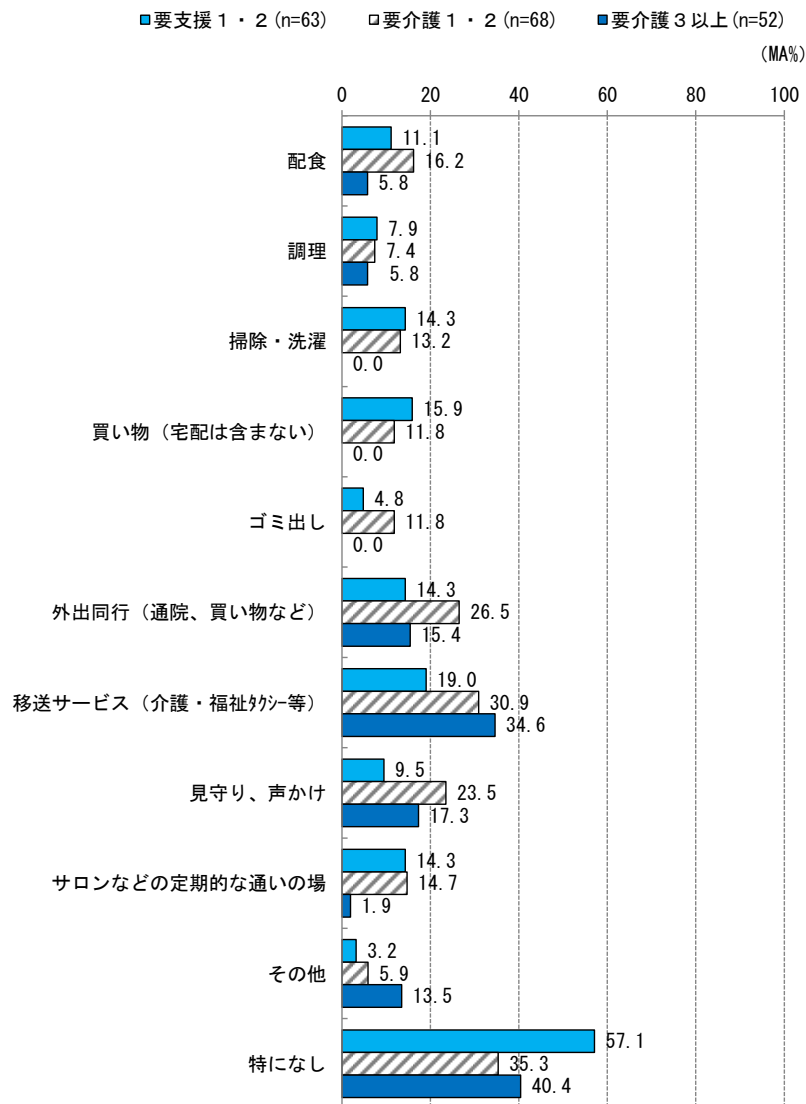
- 要支援１・２、要介護１・２では「配食」が多くなっている一方で、要介護３以上では7.1%と少なくなっています。
- 要介護度が高くなるにつれて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り、声かけ」「サロンなどの定期的な通いの場」を必要とする人が多くなる傾向がみられます。



●その他世帯

【全体】

- 要支援１・２では「特になし」が57.1%と他の区分に比べて多くなっています。
- 要介護度が高くなるにつれて、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」「見守り、声かけ」を必要とする人が多くなる傾向がみられます。



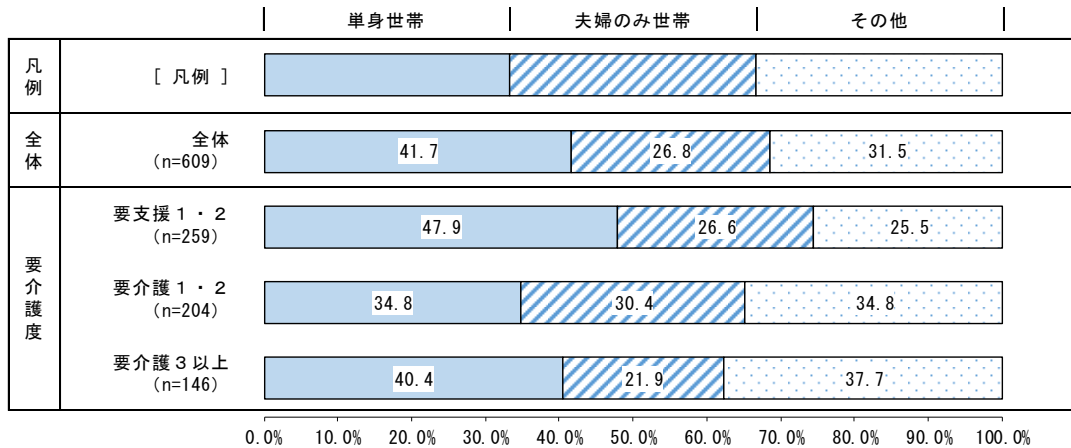
(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

① 要介護度と世帯類型

●要介護度別・世帯類型

【要介護3以上】

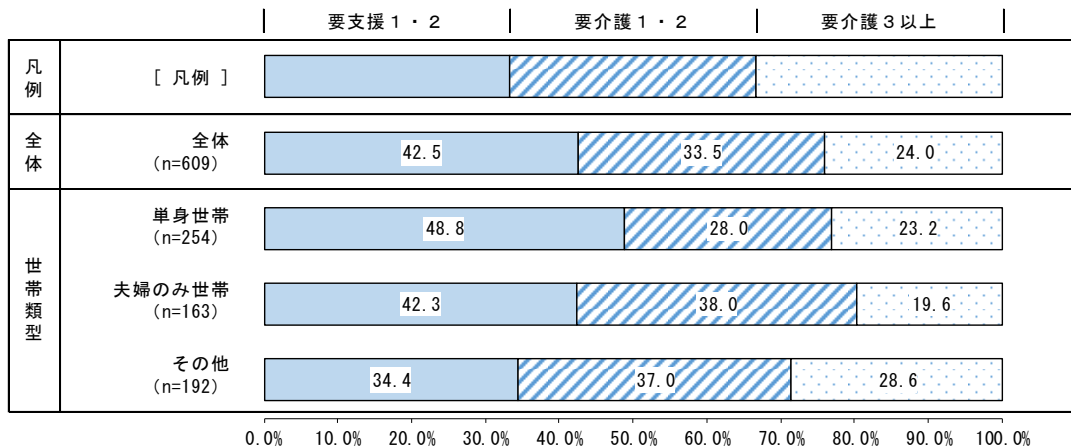
○ 単身世帯が40.4%となっています。



●世帯類型別・要介護度

【単身世帯】

○ 要介護3以上が23.2%となっています。

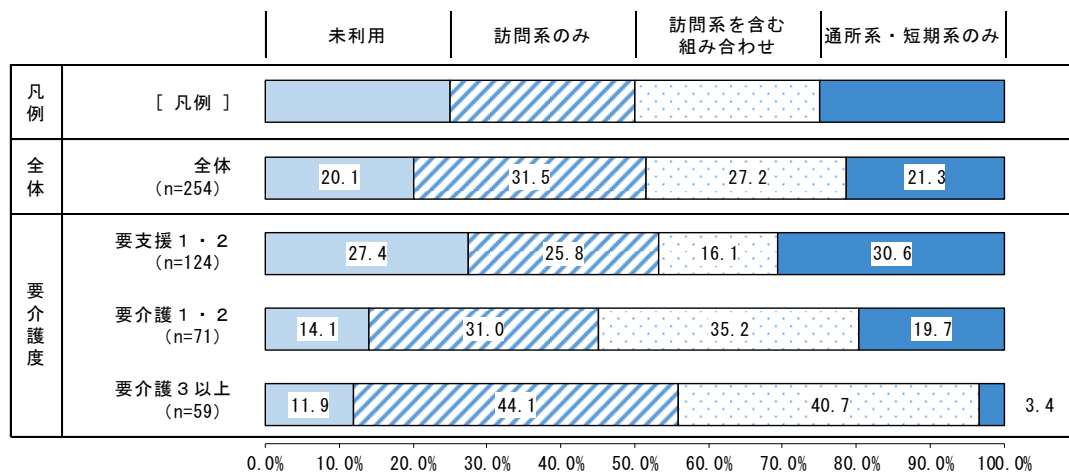


② サービス利用の組み合わせ

●単身世帯

【全体】

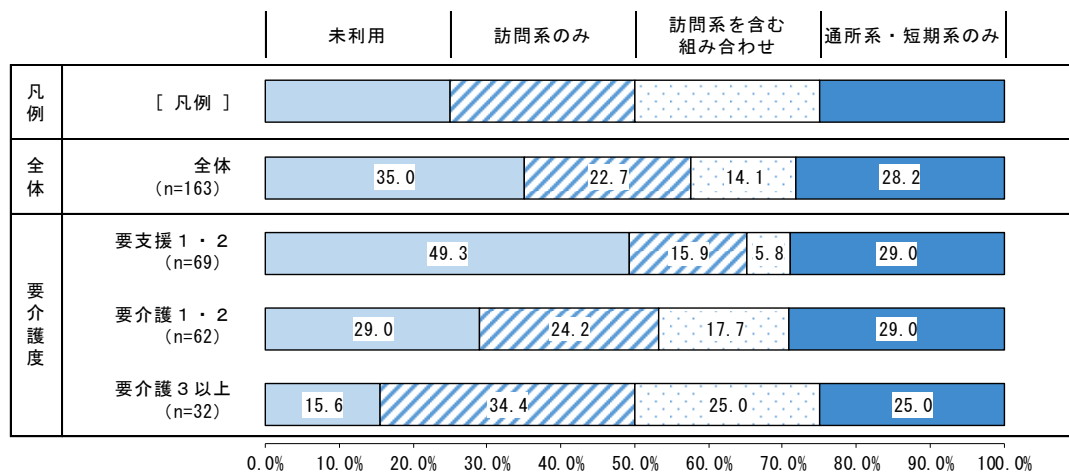
- 要介護度が高くなるにつれて、訪問系サービスの利用が多くなる傾向がみられます。
- 他の世帯類型と比較すると、訪問系サービスの利用が多くなっています。



●夫婦のみ世帯

【全体】

- 要介護度が高くなるにつれて、訪問系サービスの利用が多くなる傾向がみられます。
- 単身世帯と比較すると、「未利用」、「通所系・短期系のみ」が多くなっています。



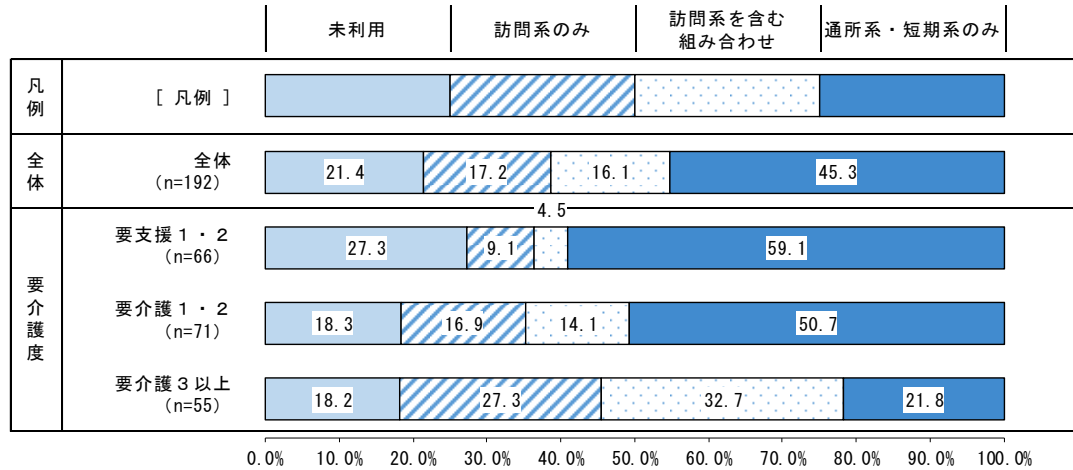
●その他世帯

【全体】

○ 要介護度が高くなるにつれて、訪問系サービスの利用が多くなる傾向がみられます。

【要支援１・２、要介護１・２】

○ 他の世帯類型と比較すると、「通所系・短期系のみ」が５割以上と多くなっています。



③ 施設等への入所・入居の検討状況

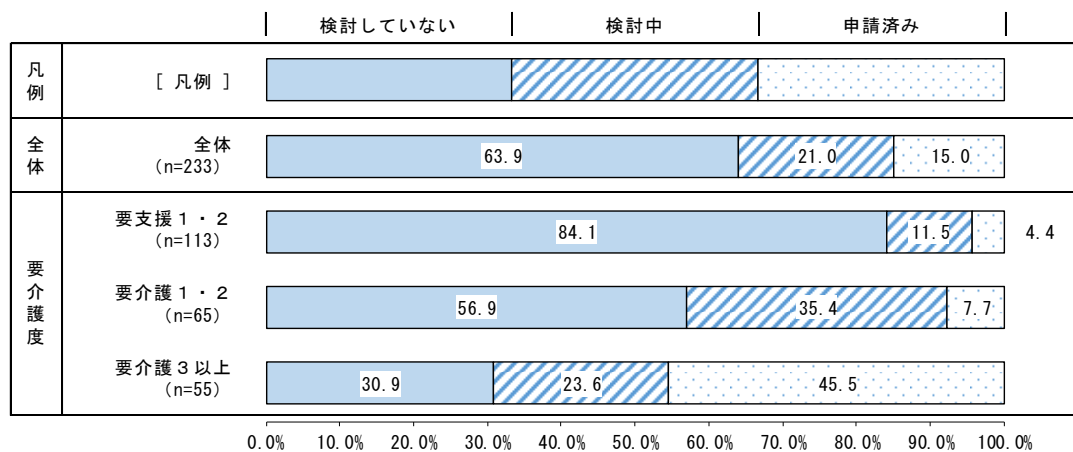
●単身世帯

【全体】

○ 他の世帯類型と比較すると、「検討中」、「申請済み」が多くなっています。

【要介護３以上】

○ 「検討していない」が30.9%となっています。



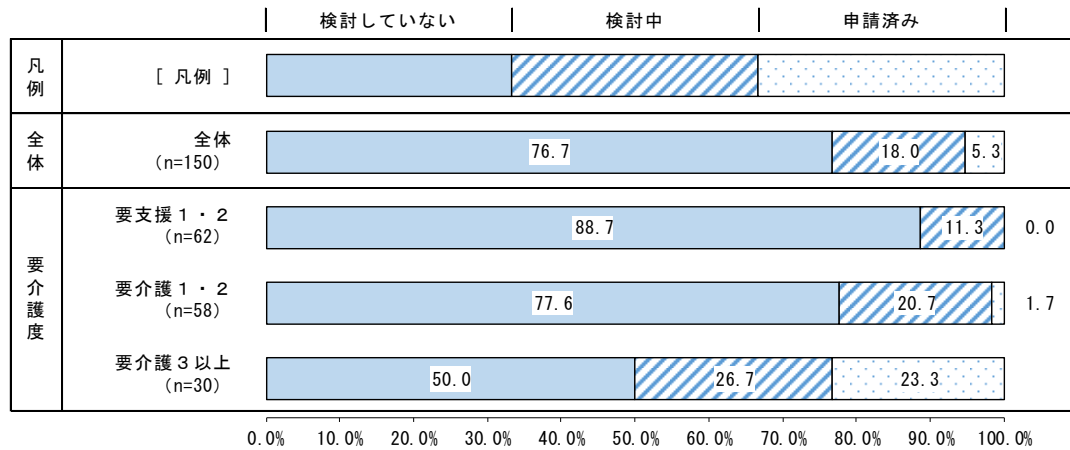
●夫婦のみ世帯

【要支援１・２、要介護１・２】

○ 他の世帯類型と比較すると、「申請済み」が少なくなっています。

【要介護３以上】

○ 単身世帯と比較すると、「検討中」が多くなっています。



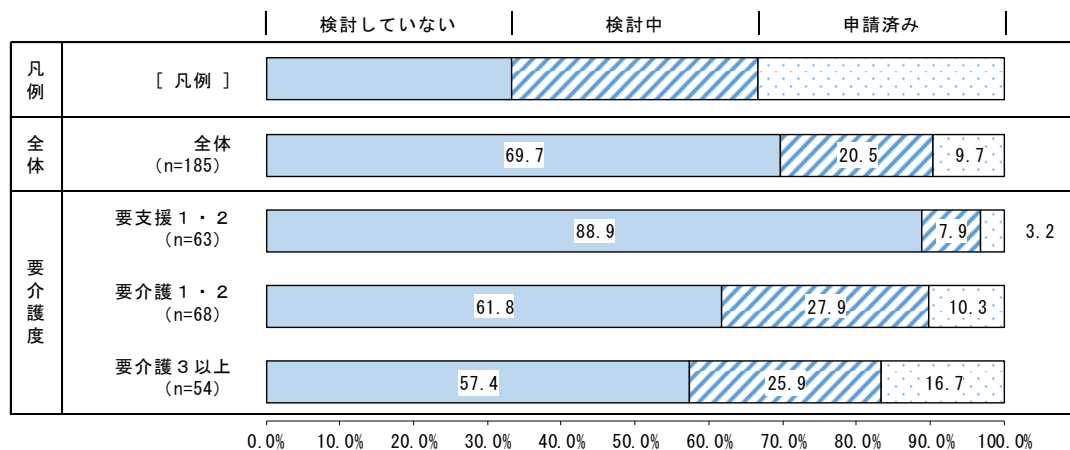
●その他世帯

【要介護１・２】

○ 「申請済み」が 10.3%となっています。

【要介護３以上】

○ 「検討していない」が 57.4%となっています。

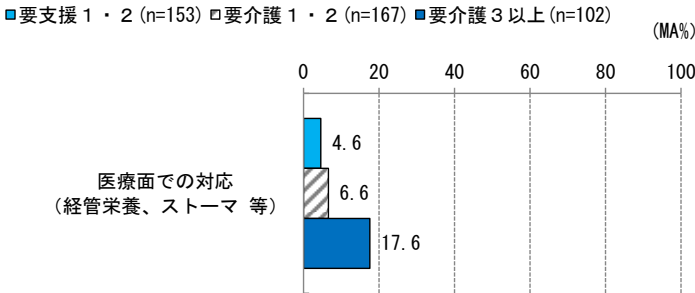


(5) 医療ニーズのある在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

① 主な介護者が行っている介護（医療面での対応）

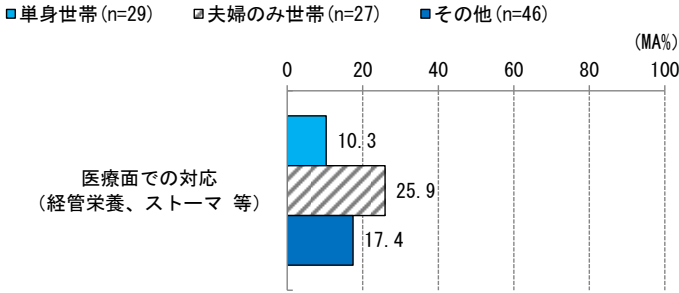
●要介護度

【全体】
○ 要介護度が高くなるにつれて、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」を行っている介護者が多くなる傾向がみられます。



●世帯類型

【全体】
○ 夫婦のみ世帯では、医療面での対応（経管栄養、ストーマ 等）」を行っている介護者が多くなっています。

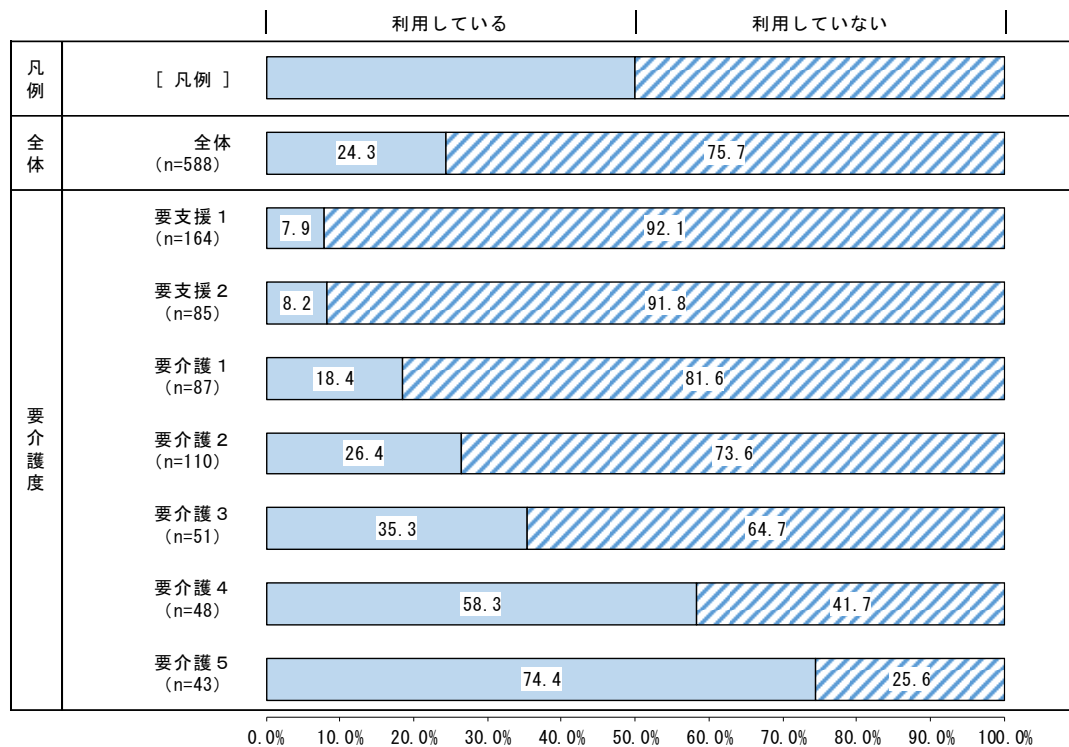


② 訪問診療の利用有無

●要介護度

【全体】

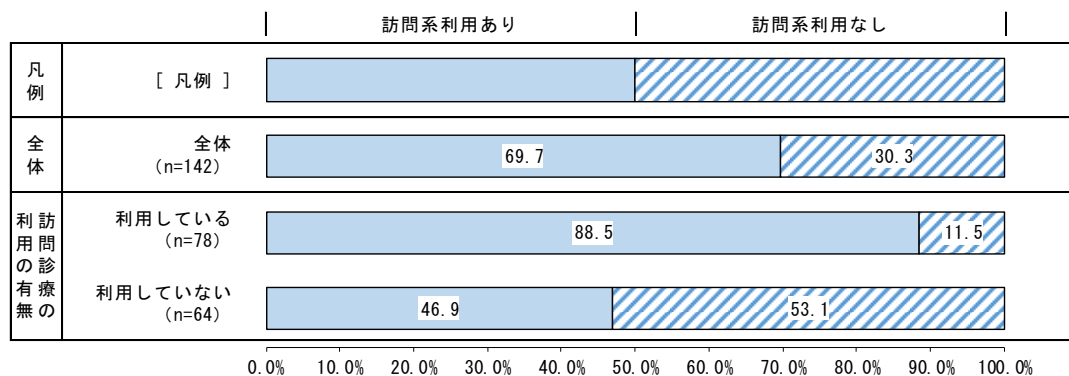
要介護度が高くなるにつれて、「利用している」が多くなる傾向がみられます。



●訪問系サービスの利用有無（要介護3以上）

【全体】

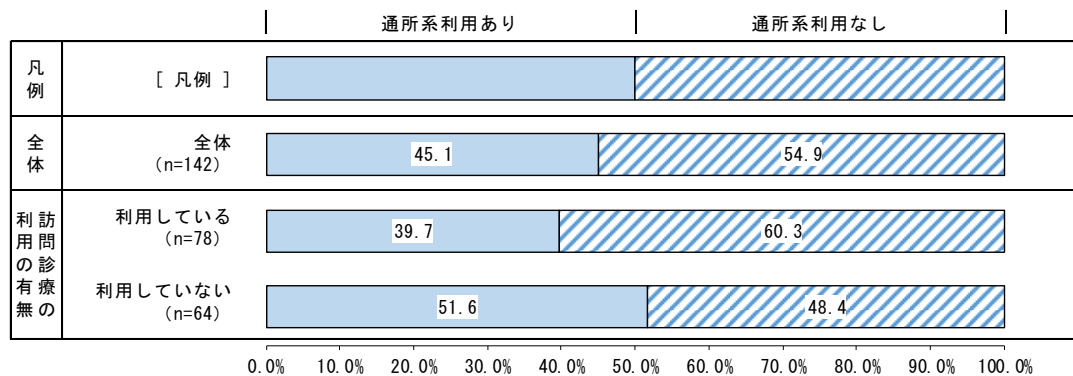
○ 訪問診療を利用している人では「訪問系利用あり」が88.5%となっています。



●通所系サービスの利用有無（要介護3以上）

【全体】

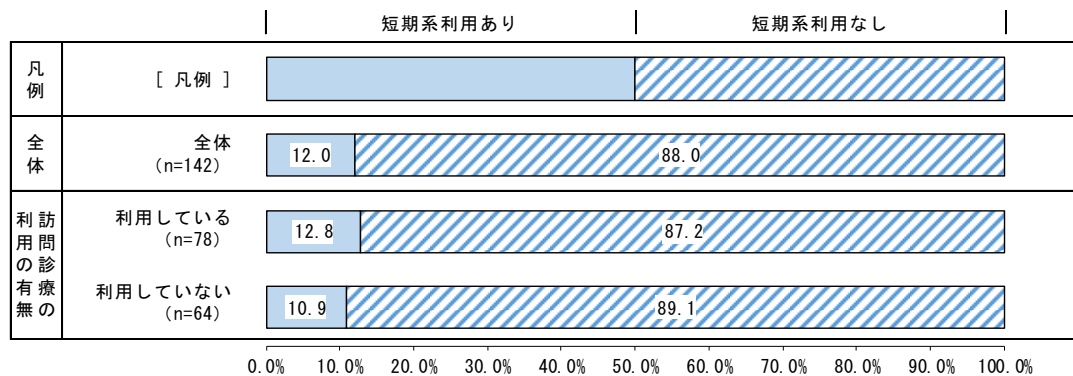
○ 訪問診療を利用している人では「通所系利用あり」が39.7%となっています。



●短期系サービスの利用有無（要介護3以上）

【全体】

○ 訪問診療を利用している人では「短期系利用あり」が12.8%となっています。



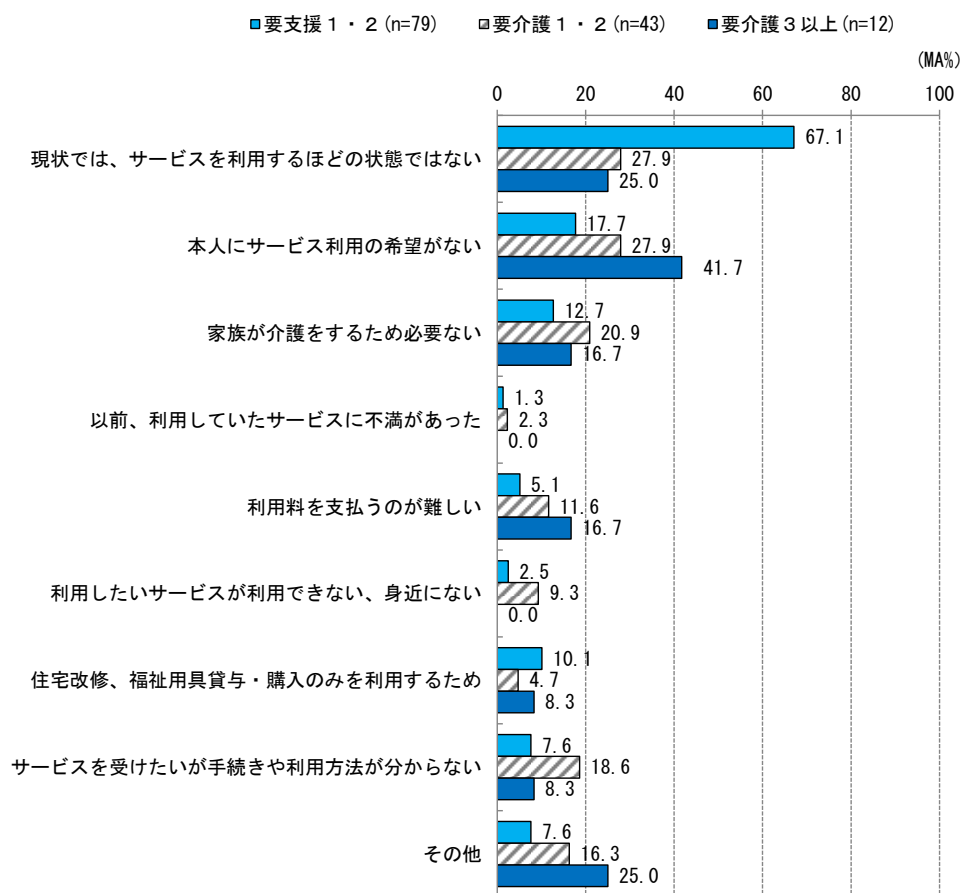
(6) 家族介護に対する支援・サービスの提供体制の検討

① 介護サービス未利用理由

●要介護度

【全体】

○ 要介護3以上では「本人にサービス利用の希望がない」が多くなっています。

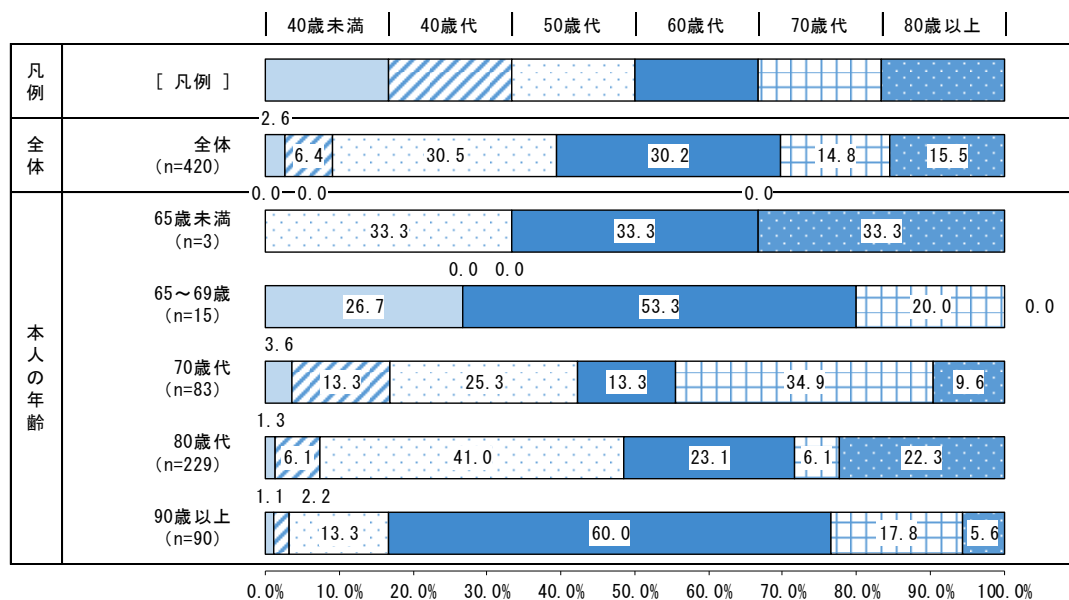


② 主な介護者の年齢

●調査対象者本人の年齢

【全体】

- 65 歳未満、65～69 歳、70 歳代では要介護者と同世代が多くなっています。
- 80 歳代、90 歳以上では要介護者の子どもにあたる世代が多くなっています。



6. 調査結果まとめ

(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

施設等への入所・入居の検討状況をみると、「申請済み」又は「検討中」と答えた人の割合が、要介護度別でみると、要支援１・２で 13.3%、要介護１・２で 35.1%、要介護３以上で 55.0%、全体では 30.9%となっています。また、世帯類型別で見た場合、単身世帯で 36.0%と他に比べてやや高くなっています。

主な介護者が不安に感じる介護としては、「認知症状への対応」「外出の付き添い、送迎等」「夜間の排泄」「入浴・洗身」が多くなっています。

(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの検討

今後の仕事と介護の両立について、「問題なく続けていける」又は「問題はあるが何とか続けていける」が６割を超えています。

主な介護者の勤務形態をみると、主な介護者が働いていない場合では要介護３以上の重度者が多くなっていることから、要介護者が要介護３以上の状態となると仕事と介護の両立に問題が生じる可能性があります。

勤務先において、介護のための「労働時間の調整」や「休暇の取得」等を利用して、働き方の調整をしているものの、就労継続に問題を抱えている人が多くなっています。これらの介護者では、介護のための休暇の制度の充実や制度を利用できる環境づくりへのニーズが高くなっています。

(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

保険外サービスの利用状況と在宅生活の継続に必要なサービスをみると、一定のニーズがあるものの、世帯類型によらずいずれの要介護度でも保険外サービスがあまり利用されていない状況があります。特に、夫婦のみ世帯、その他世帯では外出同行や移送サービスのニーズが高くなっています。また、単身世帯では要介護度によらず見守り・声かけのニーズが他の世帯に比べて高くなっています。

(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

単身世帯では、要介護度が軽度のうちから介護保険サービスを利用する人が約８割と多く、要介護３以上では 45.5%が施設への入所・入居を申し込んでいます。

夫婦のみ世帯では、単身世帯に比べて訪問系の利用が少なく、通所系・短期系が多くなっています。また、要介護度が軽度のうちは施設への入所・入居は少なく、要介護３以上で施設への入所・入居を申請している割合が多くなっています。

(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

主な介護者が行っている介護をみると、要介護３以上の約２割が「医療面での対応」を行っており、この層が医療ニーズのある在宅療養者であると考えられます。

在宅療養者向けサービスである訪問診療は、要介護３以上で利用割合が多くなっています。また、訪問診療を利用している人では訪問系サービスを利用している人が多くなっていることから、今後訪問系サービスの整備を検討する際には考慮しておく必要があります。